

TERMINAL ADAPTER

TDC200

取扱説明書



はじめに

このたびは、TDC200(以下、記述に関しては「本機」とします)をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。本機は、NTT「INSネット64」とパソコンやモデム、及び電話機やFAX等を接続するためのDSU内蔵ターミナルアダプタ(TA)です。

本機の電源を切っていたり故障したり致しますと電話機等が使えない(発信/着信しない)状態となります。

本機にて快適な通信環境を実現するために、ご使用前に取扱説明書をご精読くださいますようお願い致します。

この取扱説明書の見方は次のとおりです。

I 設置/配線

本機を使用するための基本的な準備や手続きについて説明します。

II 電話の基本設定～VII 電話の詳細な設定

本機の多彩な電話(TELポート)機能について説明します。

VIII データ通信

本機を使用したデジタル通信(USB, DATAポート)機能について説明します。

インターネットへの接続方法の説明を記載しています。

IX 付録

本機のその他の機能や仕様について説明します。

本機を安全にお使い頂くために、本書に記載されている「安全上のご注意」は必ずお守りください。お読みになったあとは、大切に保存し、必要なお読みください。

輸出する際の注意事項

注意 本製品(ソフトウェアを含む)は、日本国内向けの製品です。海外の規格などには準拠しておりません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社はいっさい責任を負いません。あらかじめご了承ください。

This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。

この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。

この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ご注意




- (1) 本書、及び本製品の内容の一部又は全部を無断で複製、複製することを禁じます。
 - (2) 本書、及び本製品の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
 - (3) 本書、及び本製品は内容について万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら、ご連絡ください。
 - (4) 本製品(ハードウェア、ソフトウェア、及び関連文書)を運用した結果については、(3)項に関わらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
 - (5) 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電時の外部要因によって通信などの機会を逸したために生じた損害等の純正経済損失につきましては、いっさいその責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- INSネット64はNTTの商標です。
 - Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, Windows 7は、Microsoft Corporationの米国、及びその他の国における商標もしくは登録商標です。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守り頂くことを説明しています。本文をよくお読み頂き、内容をよくご理解のうえ、正しくご使用ください。




■絵表示の説明

表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



-  危険：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性が切迫して生じることが想定される場合。
-  警告：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合か、軽傷または、物的損害[※]が発生する頻度が高い場合。
-  注意：取扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険性が想定される場合、ならびに物的損害[※]のみの発生が想定される場合。

※ 物的損害とは、家屋家財、及び家畜ペットに関わる拡大損害を示しています。




■お守り頂く内容の種類を次の絵表示で区分し説明しています。

-  マークは、危険、警告を含む「注意」を示しています。
左図の例は、「特定しない一般的な注意、警告、危険の通告」を示しています。
-  マークは、してはいけない「禁止」を示しています。
左図の例は、「分解禁止」を示しています。
-  マークは、必ず実行して頂く「強制」や「指示」を示しています。
左図の例は、「差込プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。








危険

-  ● ニカド電池を使用・交換するときの注意
ニカド電池は、正しくお使いください。使い方を間違えると液漏れや破裂することがあります。次の点に注意してください。
 - ・市販の単3ニカド充電電池は使用しないでください。
 - ・本機専用のニカド電池を別の装置でご使用にならないでください。
 - ・ニカド電池の分解、改造、加熱、火中に投入を行わないでください。
 - ・ニカド電池を金属製品と一緒に保管・運搬しないでください。
-  ● ニカド電池の液が目に入ったとき
失明のおそれがありますので、目をこすらずに、すぐにきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。





警告

-  ● 万一異常が発生したら、すぐに電源スイッチをOFFにしてACアダプタを抜く！
煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。
火災や感電の原因となります。このようなときには、すぐに電源スイッチをOFFにしてACアダプタを抜き、お買い上げの販売会社や弊社にお問い合わせください。
-  ● AC 100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない
定格以外の電源電圧で使用しますと火災や故障の原因となります。
-  ● 異物を入れない
本機側面の通気孔に金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。
万一異物が入った場合、すぐに電源スイッチをOFFにして、お買い上げの販売会社や弊社にお問い合わせください。










警告

	● 本機付属以外のACアダプタを使用しない 火災や故障の原因となります。
	● 分解したり改造したりしない 本体カバーをはずして内部を触ったり、本機を改造しないでください。 火災や感電、故障の原因となります。 修理の際は、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。
	● 本機の近くに水や飲料などの液体、ヘアースプレーなどの可燃物の入っている容器を置かない 内部に液体や可燃性の強い気体が入ると、火災や感電、故障の原因となります。
	● 水・薬品がかからないように 引火・火災や感電の恐れがあります。
	● 電源コードを大切に コードに重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。 コードが損傷します。コードに傷がつくと火災や感電、故障の原因となります。 また、コードを加工したり、無理に曲げたり引っ張ったりすると、火災や感電の原因となります。 コードが痛んだ場合には、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。
	● 本機を落としたり破損した場合は そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。 電源スイッチをOFFにして、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。
	● 極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない 本機は一般オフィスや家庭のOA機器と接続する用途の製品として設計されています。 幹線通信機器や業務の中心となるコンピュータシステム、人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器には、接続しないでください。










注意

	● 本機は日本国内のみで使用 国外での使用は、電源電圧等の問題により、本機が故障することがあります。
	● ACアダプタを抜くときは電源コードを引っ張らない ACアダプタを抜くときは、必ずACアダプタを持って抜いてください。 電源コードを引っ張って抜くと電源コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
	● めれた手でACアダプタにさわらない めれた手でACアダプタを抜いたり、差し込んだりしないでください。 感電や火災、故障の原因となることがあります。
	● 上にものを置かない 本機の上にものをのせないでください。故障の原因となることがあります。 また本機の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。 特にお子様のいらっしゃる家庭では注意をお願いします。

注意

	<ul style="list-style-type: none">● ACアダプタとコンセントの定期点検を ACアダプタとコンセントは長時間つないだままですと、ほこりがたまりやす。そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。1年に1回はACアダプタとコンセントの定期的な掃除をし、接触不良などを点検してください。
	<ul style="list-style-type: none">● アース端子を接地する 本機は、落雷などの影響を最小限に抑えるための落雷対策を行っていますが、必ず本機のFG端子を使って接地してください。
	<ul style="list-style-type: none">● お手入れのときは 本機の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(決して、プラグやコネクタ等の外部機器接続部をこの方法で拭かないでください)。 薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。プラグやコネクタ等の外部接続部にほこりがたまった場合は、接続先からはずし、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。 いずれの場合も、必ず、電源スイッチをOFFにして、背面のコネクタをすべて抜いてから行ってください。
	<ul style="list-style-type: none">● 本機を長期間使用しないときは(電話やFAX、パソコンやISDN機器を接続してご使用しないとき) 本機を長期間使用にならないときは、電源スイッチをOFFにしてACアダプタをコンセントから抜き、背面のコネクタを全て抜き、バッテリーボックスの電池をはずして保管してください。
	<ul style="list-style-type: none">● 電池の取り扱い注意 電池を取り外した場合は、小さなお子様や電池をなめたり、誤って飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。
	<ul style="list-style-type: none">● 雷が鳴り始めたら、ACアダプタをコンセントから抜き 落雷の恐れのあるときには、ただちに使用をやめ、本機の電源スイッチをOFFにして、ACアダプタを抜き、背面のコネクタを全て抜いてから、TELポートから通信機器との接続ケーブルをはずしてください。また、本機からISDN回線のISDNケーブルもはずしてください。落雷時に内部に電流が流れ込むと、本機を破壊する恐れがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● データの保存について 通信中に回線や本機の障害が発生すると、データが消失しますので、データのバックアップを事前に行うなどの処置を行ってください。
	<ul style="list-style-type: none">● バッテリーボックスの乾電池を使用・交換するときの注意 乾電池は正しくお使いください。使い方を間違えると液漏れや破裂することがあります。次の点にご注意ください。<ul style="list-style-type: none">・保証期間内の専用ニカド電池や単3アルカリ乾電池をご使用ください。・乾電池をショートさせたり、分解したりしないでください。・乾電池の＋方向を確認して入れてください。・乾電池の液漏れによる装置の故障については当社の保証対象外となります。・新しい乾電池と古い乾電池は混用しないでください。・使用済みの乾電池を火中に投げないでください。
	<ul style="list-style-type: none">● 接続ケーブルについて データ端末・パソコン等との接続の際には、付属の「RS-232Cケーブル」、「USBケーブル」をご使用ください。またアナログモデム使用時には市販の「電話回線用モジュラーケーブル(RJ-11コネクタ、ストレート結線)」をご使用ください。

設置に関する注意

	<ul style="list-style-type: none">● 通気孔をふさがらない 本機は内部の温度上昇を防ぐために、本体ケースに通気孔があります。タオルなどをかけたたりして、通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。通気孔は絶対にふさがらないでください。 また、本体両サイドの通気孔や背面のコネクタ類に、金属類、燃えやすいもの、水分などが入ると、本機の故障の原因となるだけでなく、火災や感電の原因となります。 万一異物が入った場合は、ただちに電源スイッチをOFFにして、背面のコネクタを全て抜いて、販売会社または弊社までご連絡ください。
	<ul style="list-style-type: none">● 風通しの悪いところに置かない 本機をラック内など、密閉された場所に置かないでください。 また、本機を直接積み重ねて使用するなど、本機の上にものを置いて使用しないでください。 熱がこもり、火災、故障の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● 温度が高くなるとところに置かない 直射日光の当たるところや発熱する器具の近くなど高温になるとところに置かないでください。 熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● 湿気やほこりの多いところに置かない 湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くに置かないでください。 火災や感電の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害が発生する恐れがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● 不安定な場所やお子様の手の届くところに置かない ぐらついた台や本機より面積が小さいものの上や傾いたところ、また衝撃や振動の加わるところなど、不安定な場所やお子様の手の届くところに置かないでください。 落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。
	<ul style="list-style-type: none">● 指定以外の方法で設置しない 本機指定以外の方法で設置しないでください。 また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特にビニールやゴム製品が接触している状態での使用もおやめください。火災や故障の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">● 本機よりNTT交換機側にアナログ装置を設置しない ISDN回線上に検針器や警報装置等を設置されているときは、必ず装置の会社もしくは装置を取り付けた会社に連絡を取り適切な処置を行ってください。 装置を取り付けたままでは、本機が正常に動作しなくなることがあります。 また、設置されている装置が完全に動作しなくなります。
	<ul style="list-style-type: none">● 本機よりNTT交換機側で回線を分配しない 本機よりNTT交換機側で回線を分配すると本機や分配している別の先の装置が正常に動作しなくなることがあります。 ISDN回線には、DSUを1台しか接続できません。

⚠️ ご使用上の注意



- 接続するアナログ回線機器に対するご注意
 - 技術基準適合認定を取得している機器を接続してください。
 - 本機には硬貨収納信号送出機能がありませんので、ピンク電話等は接続できません。ISDNの場合、伝送損失がアナログ電話回線に比べて低く、電話機では音量が大きくなります。場合によってはキンキンと割れるような受話音となり、装置の設定を変更する必要があるケースもあります。
 - また、端末機器での送信から受信への回り込み(エコー)が出やすい状態にあります。本機も送信・受信兼用の2線を送信受信別々の4線に分離する変換回路があるため、結果としてわずかながらも送信から受信への回り込み(エコー)が存在します。振幅変調信号を利用した画像電送装置等では、アナログ電話回線ではうまく利用できていたとしても、ゴースト等の現象として影響が生じることがあります。
 - 特に写真電送装置等の映像、画像用の電送装置を接続する場合にご注意願います。
 - 着信時の呼び出し信号については、アナログのビジネスホンで利用されている単体電話機用アダプタと同じく、方形波形式となっております。
 - 従って、16Hz交流信号(正弦波)しか着信検出ししない装置では、自動応答等の機能が動作しない場合があります。
 - 留守番電話機・FAX機等の自動応答機能を使っているものはご注意ください。
 - 電話機自体がフッキングを使用して特別な機能を持っている場合(親機と子機間の操作等)、本書に記載しているフッキングを利用した機能がご使用になれません(電話機と本機両方の機能が動作してしまいます)ので本機のフッキングを無効にしてください。
 - フレックスホン(本機独自の類似機能も含む)や内線転送を使用すると、電話機の料金表示機能は正常に動作しないことがあります。
 - ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ対応機器を使用される場合、発信者番号が表示されないことがあります。
 - 1つのTELポートには1台のアナログ通信機器を接続してください。
同一のTELポートに複数台のアナログ通信機器を接続しますと、使用できないことがあります。

本機の保証について

- 保証期間中は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、弊社では設置工事・出張修理は行っておりません。
- 保証期間を過ぎている場合には修理によって使用できる場合には、ご要望によって有償で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

目次

I章 設置/配線	1
1 概要.....	2
2 製品の構成(梱包内容).....	3
3 各部の名称とはたらき.....	4
4 ISDN(INS ネット 64)の加入手続き.....	8
5 接続のしかた.....	9
5-1. 全体接続図.....	9
5-2. 回線に接続する.....	10
5-3. 電話機・FAX・モデムを接続する.....	10
5-4. パソコンを接続する.....	11
5-5. AC アダプタとアース(FG)を接続する.....	15
5-6. 回線との接続を確認する.....	16
6 設置のしかた.....	17
6-1. 縦置きのしかた.....	17
6-2. 横置きのしかた.....	18
6-3. 積み重ねのしかた(オプション).....	18
6-4. 壁掛けのしかた(オプション).....	19
7 停電になったときのために.....	20
7-1. バッテリーボックス(オプション)を接続する.....	20
II章 電話の基本設定	22
1 基本的な説明.....	23
1-1. 電話操作説明上の基礎用語.....	23
1-2. INS ネット 64 の付加サービスについて.....	24
1-3. 独自機能について.....	25
2 TEL ポート機能を設定するには.....	26
2-1. 電話機を使って設定する.....	27
2-2. パソコンを使って設定する.....	29
2-3. 設定を初期化する.....	30
3 電話番号を登録する.....	31
3-1. 契約者回線番号の登録(自己アドレス).....	31
4 アナログ機器を使うには.....	32
4-1. ダイヤルパルス方式の電話機を使う.....	32
4-2. 自動発信装置や回線選択装置を使う.....	33
4-3. ナンバー・ディスプレイ対応電話機を使う.....	34
4-4. キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を使う.....	35

4-5. ネーム・ディスプレイ対応電話機を使う.....	36
4-6. アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン対応機器を使う.....	37
5 電話の音量を調整するには.....	39
5-1. 受話音量の調整.....	39
5-2. 送話音量の調整.....	39
6 短縮/共通短縮ダイヤルを登録/変更するには.....	40

III章 電話の発信.....41

1 電話をかけるには.....	42
1-1. 外線にかける.....	42
1-2. 短縮/共通短縮ダイヤルで電話をかける.....	42
1-3. #などの記号を含む番号にかける(特殊ダイヤル).....	43
1-4. 他の TEL ポート呼び出す(内線呼出).....	44
1-5. 通話を保留にして別の相手に電話をかける(通信中発信).....	45
2 電話をかけるときに電話番号を通知するには(発信者番号通知).....	46
2-1. 発信者番号通知の方法を決める.....	46
2-2. 発信ごとに電話番号を通知する/しないを指定する.....	46
3 通知する電話番号を選ぶには.....	47
4 その他の発信機能.....	48
4-1. 外線発信を禁止する.....	48
4-2. サブアドレスを指定して発信する.....	48

IV章 電話の着信.....49

1 電話を受けるには.....	50
2 優先的に呼び出す電話機を決めるには(優先着信).....	50
3 外線からの着信を禁止するには(着信禁止).....	51
4 通話中にかかってきた電話を受けるには(キャッチホン).....	52
4-1. 割込着信の方法.....	53
5 この通話中だけキャッチホンを禁止するには.....	54
6 他の電話よりも遅らせてベルを鳴らすには(遅延呼出).....	55
7 電話機や FAX にそれぞれ専用の電話番号を使うには(i・ナンバー/ダイヤルイン).....	56
8 サブアドレスを使うには.....	58

V章 電話の転送.....59

1 転送とは.....	60
2 かかってきた電話を自動的に別の電話に転送するには(フリー転送/着信転送).....	61
2-1. 転送をする/やめる.....	62

2-2. 転送先の電話番号を登録/変更/削除する.....	63
2-3. フリー転送でベルを鳴らしながら転送先を呼び出す(転送同時呼出)	64
2-4. 着信転送のとき、転送のアナウンスを流す(転送アナウンス).....	65
3 外出先からの転送の設定/変更を行うには(リモート設定).....	66
3-1. リモート設定用暗証番号の登録.....	66
3-2. 外出先から転送をセット/解除する.....	67
3-3. 外出先から転送先を変更する.....	68
4 通話中の電話を転送するには.....	69
4-1. 外線通話を別の TEL ポートに転送する(内線転送).....	69
4-2. 外線通話を別の外線に転送する(通信中転送).....	70

VI章 電話の便利な機能.....71

1 別々の電話の二人と話す(三者通話).....	72
1-1. 相手を切り替えて話す(切替モード).....	72
1-2. 三人同時に話す(ミキシングモード).....	73
2 特定の相手によってベルの鳴らし方を変えるには.....	73
2-1. オンネット識別音.....	74
2-2. なりわけ.....	74

VII章 電話の詳細な設定.....75

1 フックングの設定.....	76
1-1. フックングの有効/無効の設定.....	76
1-2. フックングの微調整.....	76
1-3. フックングを#ボタンで代用する(フックング代用).....	78
2 呼出音周波数の設定.....	79
3 切断信号(CPC)の設定.....	80
4 機器種別の設定.....	80
4-1. 着信時に機器種別をチェックする/しない.....	81
4-2. 発信時に機器種別を一時的に変更する.....	81
5 メンテナンス用暗証番号の設定.....	82

VIII章 データ通信.....83

1 データ通信の概略.....	84
2 インターネットに接続する.....	86
2-1. 始める前に.....	86
3 インターネット以外の接続について.....	87
3-1. データ通信に必要なこと.....	87
3-2. データ通信で着信する.....	88
3-3. FAX ソフトを使う.....	88

3-4. データ通信での発信者番号通知について	88
-------------------------------	----

IX章 付録..... 89

1 本機のバージョンアップ.....	90
1-1. ユーティリティのインストール.....	90
1-2. ファームデータの用意.....	91
1-3. バージョンアップを行う.....	91
2 困ったとき.....	93
3 通話操作一覧.....	97
4 電話機からの設定操作一覧.....	98
5 主な仕様.....	101

I

設置/配線

1 概要

● ISDN回線について

ISDN回線では、大きく分けてデジタル通信と音声通話の2種類があり、使用する機器によりデジタル通信と音声通話が分かれます。

デジタル通信はUSBポートもしくはDATAポート、音声通話ならTELポートとなります。

本機では、デジタル通信から音声通話へ、音声通話からデジタル通信への変換は行っておりません。

例えば、デジタル通信であるG4FAXから受信する場合、G4FAXモードのままでは本機TELポートのG3FAXIに受信することはできません。

G4FAXからG3FAXモードで送信して頂く必要があります。

ISDN回線は、1回線で2チャンネル使用できます。本機には、通話できる機器が2台、通信できる機器が1台接続できますが、通常使用できる機器は同時に2台までです。発信に関しては、接続した機器による優先順位はなく、使用される順番にチャンネルの割り当てを行います。

着信に関しては、本機の設定と接続機器の使用状態に従います。

● TELポートの工場出荷値での動作について

本機の工場出荷値での主な動作は、次のとおりです。

発信

- ・ダイヤル方式がPB(ブッシュホン)のためDP(ダイヤルパルス)の電話機では発信できません。
- ・全てのTELポートは、発信できます。

着信


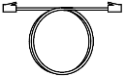
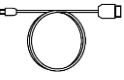
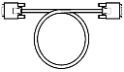
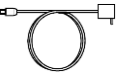
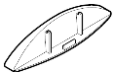
- ・全てのTELポートは、着信できます。
- ・全てのTELポート未使用时、最初の着信はTEL1ポートのみ呼び出します(TEL1ポートが優先着信です)。
- ・契約者回線番号のみ着信を受け付けます。ダイヤルインによる追加番号の着信はできません。i・ナンバーによる追加番号は、契約者回線番号として着信します。

その他

- ・キャッチホンは使用できません。
- ・ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイは使用できません。
- ・アナログ(PB方式)ダイヤルイン/モデムダイヤルインは、使用できません。

2 製品の構成(梱包内容)

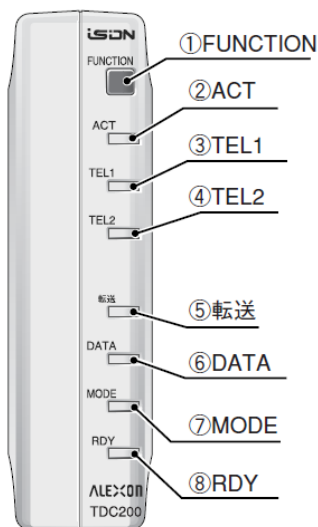
ご購入頂いた製品には次のものが含まれています。ご確認ください。
足りないものがあるときには、お買い上げ頂いた販売店にご連絡ください。

		TDC200
ターミナルアダプタ本体		1台
回線接続ケーブル(3m) (6極2芯ストレート)		1本
USBケーブル(2m)		1本
RS-232Cケーブル(1.5m) (9ピンストレート)		1本
ACアダプタ		1個
CD-ROM ※1		1枚
スタンドアダプタ		2個1組
簡易取扱説明書		1枚
保証書		1枚

※1 収録内容 Windows用:取扱説明書、モデム定義ファイル、USBドライバ、設定ユーティリティ、バージョンアップユーティリティ

3 各部の名称とはたらき

■ 正面図



① ファンクションキー (FUNCTION)

● フリー転送/着信転送

1秒以上押し続けると、転送機能をセットもしくは解除します。^{※1}
セットと解除を交互に切り替えます。

● 設定の初期化

ボタンを押しながら電源を入れると、全設定が初期化されます。
全LEDが点灯してその後、ACT、TEL2、DATA、RDYの4個のLEDが点灯するまで押し続けてください。
この操作を行うと、設定していた内容がすべて工場出荷値^{※2}に戻りますので十分にご注意ください。

※1 詳細はV章2「かかってきた電話を自動的に別の電話に転送するには(フリー転送/着信転送)」(P61)参照。

※2 USBの設定とメンテナンス用暗証番号は除きます(P30 参照)。

【LED】

② ACT

ISDN回線の接続状態を示します。

- 点灯 : 電源が入っている状態。ISDN回線正常。
- 点滅 : 電源が入っている状態。ISDN回線未接続。
- 消灯 : 電源が入っていない状態。

③ TEL1 ④ TEL2

接続の電話機(FAX/アナログモデム)の使用状態を表します。

- 点灯 : 転送が設定されている状態。
- 遅い点滅 : 接続の電話機(FAX/アナログモデム)使用中。
あるいはオフフック時。
- 早い点滅 : 着信してTELポート呼出中。
- 消灯 : 接続の電話機(FAX/アナログモデム)未使用。

⑤ 転送

フリー転送/着信転送が設定されているかを示します。

- 点灯 : 転送が設定されている。
- 消灯 : 転送が設定されていない。

⑥ DATA

- 点灯 : DATAポートかUSBポートでデータの送受信中。
- 消灯 : DATAポートかUSBポートでデータの送受信無。

⑦ MODE

ISDN回線上のデータ通信状態を示します。

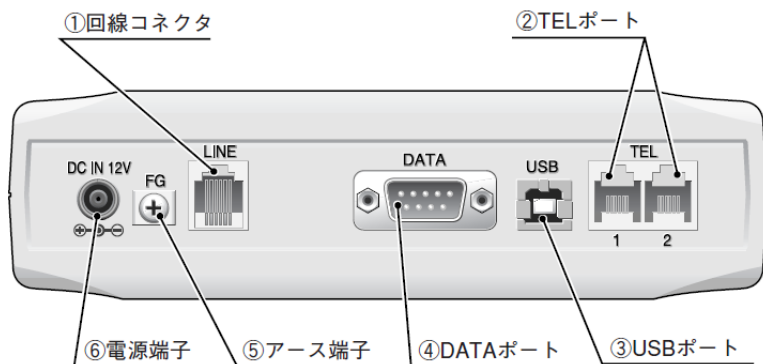
- 点灯 : デジタル通信を行っている状態。
- 消灯 : デジタル通信を行っていない状態。
- 遅い点滅 : MP通信による2チャンネル使用時。
- 早い点滅 : デジタル通信の発着信時。

⑧ RDY

パソコンのER信号がONのとき、あるいは本機の設定が「ER常時ON」に設定されているときに点灯します。

パソコンのER信号は通常通信ソフトを起動したときなどにONになります。

■ 背面図



① 回線コネクタ (LINE)

付属の回線接続ケーブル (RJ-11コネクタ、ストレート結線) を使って回線と接続するためのコネクタです。

② TELポート (TEL1、TEL2)

電話機、FAXやアナログモデムなどアナログ電話回線用の通信機器を接続するためのコネクタです。

③ USBポート (USB)

デジタル通信用のコネクタです。USBケーブルでパソコンなどと接続します。DATAポートと同時に接続した場合はUSBポートしか使用できません。Windows 2000/XP/Vista/7がプリインストールかつUSBポート標準搭載のパソコンで使用可能です。

④ DATAポート (DATA)

デジタル通信用のコネクタ (D-Sub9pinオス) です。RS-232Cケーブル (D-Sub9pinメス、ストレート結線) でパソコンなどと接続します。

⑤ アース端子 (FG)

アース線を接続するための端子です。アース線は付属しておりませんので、ご用意のうえ接続してください。

⑥ 電源端子 (DC IN 12V)

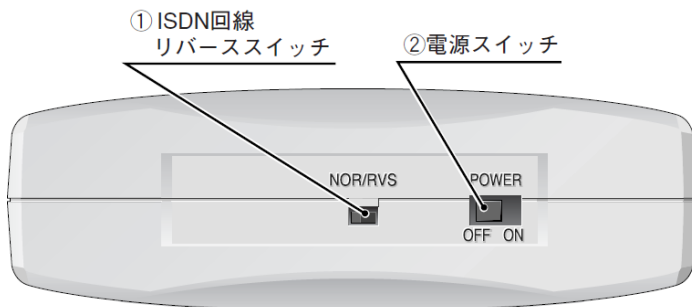
付属のACアダプタまたは、オプションのバッテリーボックスを接続するための端子です。



注意

- アースは、落雷などの事故が起こった場合に、人身への障害や装置の損傷を防止するためのものです。
- 必ず本機にアース線を接続してご使用ください。アース線を接続しないと感電などの原因となります。
- アース線の取り付け、取り外しは、必ず本機の電源を切り、ACアダプタを抜いた状態で行ってください。電源を入れたままで行うと、感電などの原因となります。
- アース線を接続しないと、雷発生時にDSU故障などの原因となります。

■ 底面図



① ISDN回線リバーススイッチ

ISDN回線の極性が反転しているときに、正常にするためのスイッチです。

② 電源スイッチ

電源のON/OFFを行うためのスイッチです。

4 ISDN(INS ネット 64)の加入手続き

本機をご利用頂くためには、お客様の方でNTTの「INSネット64」のお申し込みが必要です。お申し込みの際にはNTTの「INSネット64お申込票」に次のようにご記入、または該当する箇所の口を塗りつぶしてください。

● お客様記入事項

以下の項目はお客様がご記入ください。

- ① お申込年月日お申込票を提出される日を記入します。
- ② ご記入者お申込票を記入された方の名前を記入します。
- ③ ご利用開始希望日工事を希望される日付を記入します。
- ④ お申込回線数 ISDN回線の回線数を記入します。
- ⑤ お申込者名 ISDN回線の設置を申し込む方の名前を記入します。
- ⑥ INSネットをご利用になる場所
..... ISDN回線を設置する場所を記入します。
すでにその場所で電話などを利用している場合は、
その電話番号もあわせて記入します。
- ⑦ お申込者ご住所 ISDN回線の設置を申し込む方の住所を記入します。
- ⑧ ご連絡先勤務先などの電話番号を記入します。
- ⑨ 工事立会者 ISDN回線の設置工事に立ち会う方の名前と連絡先を記入します。
- ⑩ 毎月の請求書の送付先毎月の請求書の送付先を記入、または選択します。
- ⑪ 電話帳への記載方法電話帳へ電話番号を記載する場合は、名前を記入します。
タウンページにも記載する場合は、職業分類欄に職業を記入します。
電話帳への掲載はしないが、番号案内(104)のみを希望する場合は
「電話帳へは掲載しないが、番号案内(104)は行う」を選択します。

● 本機を使用する必須項目

- ・ インターフェース形態、及びレイヤ1起動種別 : P-MP常時
- ・ 本機適合認証番号 : CD01-0567JP
- ・ DSU折り返し機能 : 有



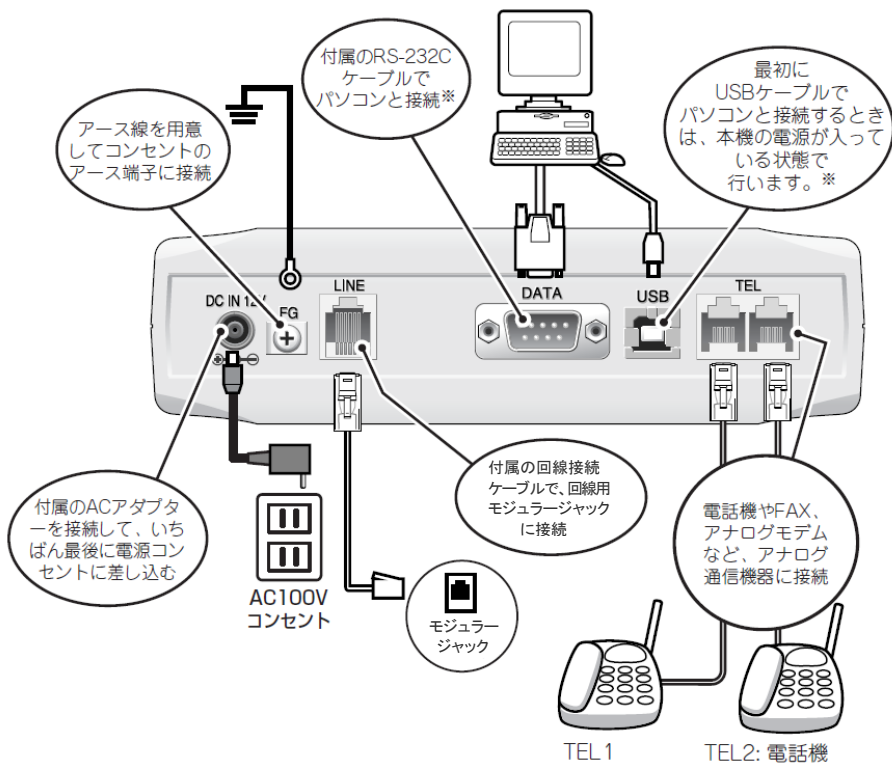
ワンポイント

フレックスホンなどの付加サービスを契約する場合は、NTT窓口でご相談のうえ、申込票に記入してください。

5 接続のしかた

5-1. 全体接続図

次のように接続してください。機器の接続は電源をOFFにした状態で行ってください。



⚠️ ご注意

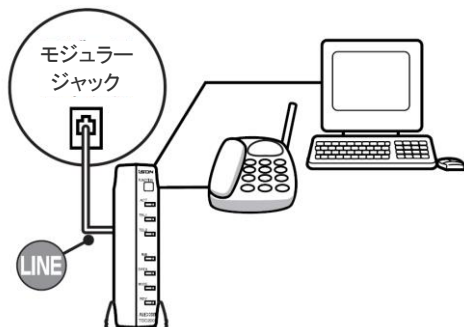
●接続前の注意点

1. 接続は、回線が「INSネット64」であることを確認して行ってください。「INSネット64」の申込み時に工事の日程を決めてNTTより工事終了の確認をしたあと、または同時に接続を行ってください。
2. 回線接続口がモジュラージャック式でない場合は、モジュラージャック式に変更する必要があります。
3. 接続するときは、本機の電源を切ってから行ってください。

※ DATAポートとUSBポートの共用はできません。双方を接続した場合はUSBポートしか使用できません。

5-2. 回線に接続する

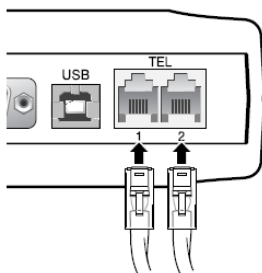
回線に接続するには、本体背面の「LINE」と表記された端子に接続します。



5-3. 電話機・FAX・モデムを接続する

電話機、FAX/アナログモデムなどのアナログ通信機器は、本体背面の「TEL」と表記された2つの端子に接続します。

一台しか接続しない場合は、「TEL1」を使用してください。



注意

- 使用しないTELポートには着信禁止 (P51)を設定してください。
- 機器を接続するときには、本機の電源はOFFにしておいてください。
- 電話機の接続コネクタ形状によっては、接続できない場合もあります。接続する電話機側の接続コネクタが、本機のTELポートに接続できる形状のものかどうかを確認してください。

5-4. パソコンを接続する

本機とパソコンとの接続にはDATAポートもしくはUSBポートを使用します。

また、アナログモデム使用時はTELポートを使用します。

DATAポートは、パソコンのRS-232Cポートと接続するときに、

USBポートはパソコンのUSBポートと接続するときに使用します。

ただし、両方のポートを同時に使用することはできません。

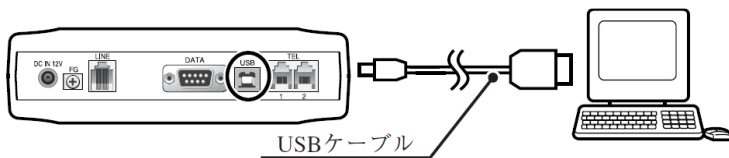
両方のポートにケーブルが接続されているときはUSBポートが優先されます。



ご注意

- USBケーブルが本機に接続されると、RS-232Cポートでデータ通信中であっても回線をいったん切断します(同時に接続されている場合、USBポートしか使用できません)。また、USBケーブルが外された場合は、データ通信中でも回線を切断しRS-232Cに切り替えます。DATAポートとUSBポートを切り替える場合、データ通信中のときはいったんデータ通信を終了させてから行ってください。
- USBポートでデータ通信中に他のUSB機器の抜き差しや電源のオン/オフは行わないでください。データ通信が切断されます。
- パソコンのスタンバイやサスペンド・モードには対応していません。

● パソコンとの接続



USBポートを使用するためには、本機USBドライバのインストールが必要です。
本機USBドライバのインストールを行うと、COM3以上の未使用となっている通信ポートに
モデム定義ファイルを自動的にインストールします。

(1) USBポートを使用するための条件

USBポートを使って本機をパソコンと接続するには次の3つの条件を満たしている
必要がありますので、まずご確認ください。

- USBポート標準搭載パソコン
- パソコンに下記のOSがプリインストールされている必要があります。
Windows 7(Home Premium/Professional、32ビット、64ビット日本語版)
Windows Vista(Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate、32ビット日本語版)
Windows XP(Home Edition/Professional)
Windows 2000
- USBコントローラが正しくインストールされていること



注意

- 条件を満たしていないパソコンに本機用のUSBドライバをインストールしないでください。
OSが動作しなくなる可能性があります。
- 本機ではDATAポートと同時に使用することはできません。
同時に接続されている場合はUSBポートしか使用できません。
- 1台のパソコンにUSBポートで弊社TAを2台以上接続することはできません。

(2) USBドライバをインストールする

本機とパソコンがDATAポート接続のみの場合などはUSBドライバをインストールする
必要はありません。本機とパソコンをUSBポート接続するときのみUSBドライバの
インストールが必要です。

USBのインストール方法は、添付のCD-ROMをご参照ください。



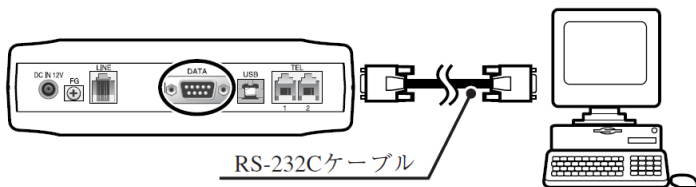
注意

USBドライバのインストールが完了するまではUSBケーブルを抜かずに、本機の電源も切らないで
ください。パソコンが本機のUSBを認識しなくなることがあります。

■ DATAポートを使う

● パソコンとの接続

RS-232CのポートがD-Sub9pinの場合には、RS-232Cケーブル(D-Sub9pinメス-D-Sub9pinメス、ストレート結線)で接続ができます。

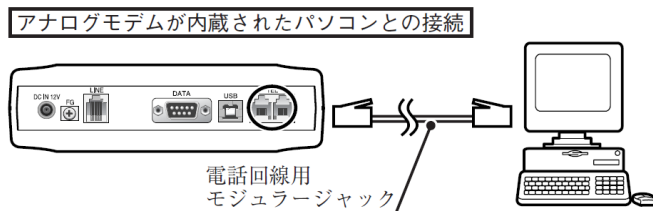


DATAポートを使って、本機でインターネットを行う場合、モデム定義ファイルのインストールと設定が必要です(Windows 2000/XP/Vista/7対応)。

モデム定義ファイルのインストール方法と設定は、添付CD-ROMをご参照ください。

■ TELポートを使う

市販の電話回線用モジュラーケーブル(RJ-11コネクタ、ストレート結線、2芯以上)でパソコン内蔵アナログモデムもしくはパソコンに接続された外付けアナログモデムの「LINE」コネクタに接続します。



- パソコンの設定
本機に関する設定は必要ありません。

5-5. AC アダプタとアース(FG)を接続する

(1) アース(FG)を接続

市販のアース線を使って、本体背面の「FG」端子をアースに接続してください。

(2) ACアダプタを接続

ACアダプタを本体背面の「DC IN 12V」と表示された端子に挿入します。

最後に、電源コンセントに接続します。

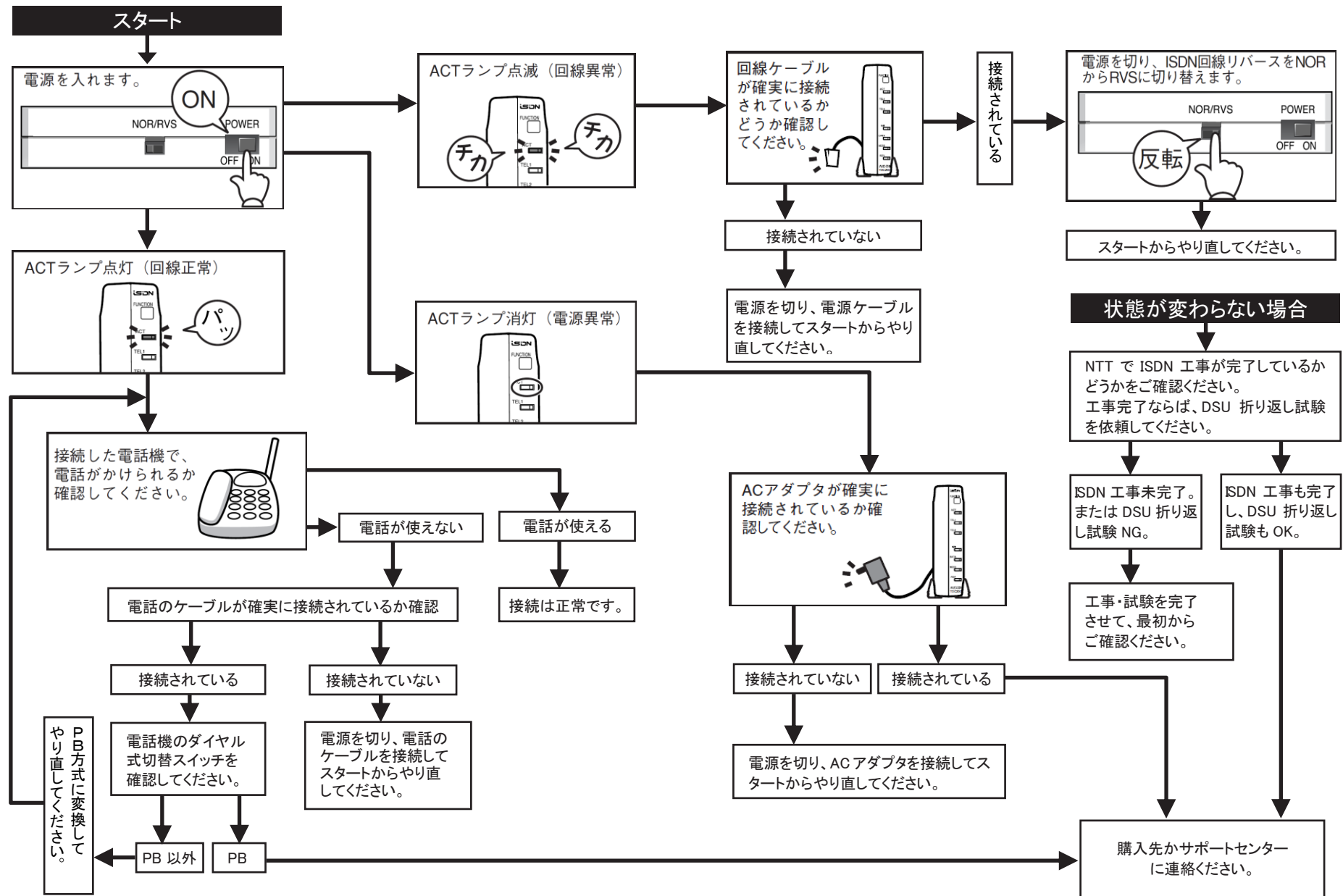


注意

- ACアダプタは必ず一番最後に接続してください。
- 必ず本機にアース線を接続してご使用ください。アース線を接続しないと感電などの原因となります。
- アース線の取り付け、取り外しは、必ず本機の電源を切り、ACアダプタを抜いた状態で行ってください。電源を入れたままで行うと、感電などの原因となります。
- アース線を接続しないと、雷発生時にDSU故障などの原因となります。

5-6. 回線との接続を確認する

次のフローチャートにそって回線接続の確認をしてください。



6 設置のしかた

● スタンドアダプタの取り付け

本機では、縦置きや横置きでご使用するためのスタンドアダプタが付属しています。

スタンドアダプタは指定の箇所に取り付けてください。

スタンドアダプタを取り付けずに使用されますと、左右側面の通気孔を塞ぎ、通気の悪化による異常動作の原因となります。

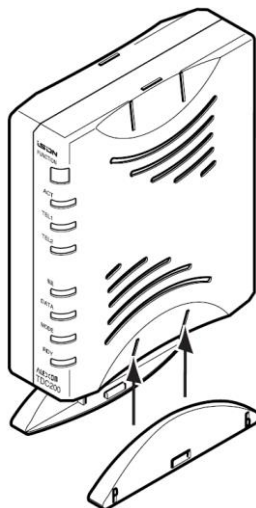
取り付け位置

右図のように本体に空いている取り付け用の

穴にはまるように、取り付けてください。

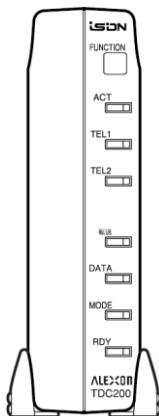
横置きの場合には、左側のみ取り付けます。

(次頁参照)



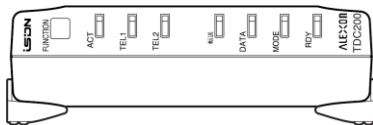
6-1. 縦置きのしかた

スタンドアダプタを図のように取り付けます。



6-2. 横置きのしかた

スタンドアダプタを図のように片方だけに取り付けると、横置きができます。



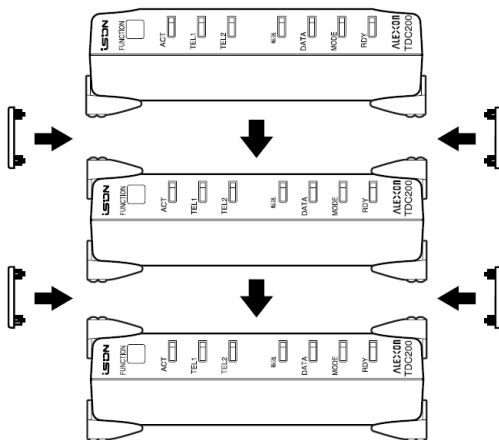
6-3. 積み重ねのしかた(オプション)



ワンポイント

積み重ねるには、スタンドアダプタと段積固定ブラケットが追加が必要です。スタンドアダプタ(4個1組)と段積固定ブラケット(4個1組)を一式としてオプションで用意しています。
オプション スタンドアダプタ[ALEX-TD/SA2000]

- ① 下になる機器の上辺、下辺にアダプタを取り付けます。
- ② 上下のアダプタを、「段積固定ブラケット」で固定してください。
横から、アダプタの穴にはめ込みます。



注意

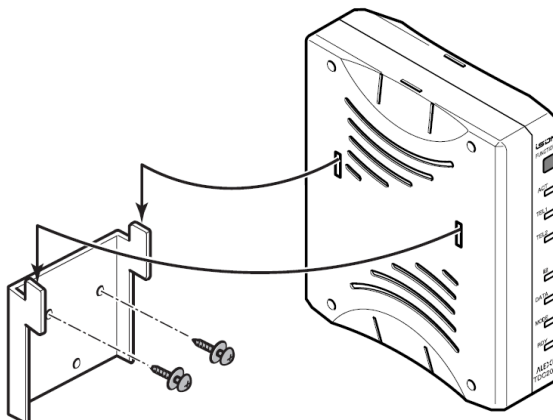
本機をラック内など、密閉された場所に置かないでください。スタンドアダプタを装着しない状態で積み重ねたり、本機の上に物を置いての使用は、しないでください。熱がこもり、火災、故障の原因となることがあります。

6-4. 壁掛けのしかた(オプション)

本機は、壁掛けできるようになっています。

壁に掛けて使われる方は、次の手順にそって取り付けください。

- ① 取り付け金具を、取り付けネジを使って、しっかり固定できる柱や壁などに取り付けてください。
- ② 取り付けた壁掛け金具と、本機側面にある壁掛け金具用の穴を合わせて、しっかりと引っかけます。



ご注意

壁掛け金具は、図の向き以外で壁や柱に取り付けないでください。

7 停電になったときのために

本機は停電時、使用できません。

停電時でも本機を使用するには、オプションのバッテリーボックスを使用する必要があります。

本機には、停電モードはありません。

バッテリーボックスを使われても全ポート使用可能です。

待ち受け時間：約4.5時間(単3アルカリ乾電池)/約3.0時間(専用ニカド電池)^{※1}

連続通話時間：約3.5時間(単3アルカリ乾電池)/約2.5時間(専用ニカド電池)^{※2}

※1 全TELポートオンフック状態。

※2 TEL1のみ通話、TEL2オンフック。

使用する電池のメーカーや状態、及び使用環境により時間は異なります。



ワンポイント

オプション

専用バッテリーボックス
専用ニカド電池

- ・詳しくは、弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ・市販の単3ニカド充電電池は使用しないでください。
- ・本機専用のニカド電池は装着すると自動的に充電されます。
- ・停電中にニカド電池の電池が無くなった場合、アルカリ乾電池と交換することにより継続して停電中に使用できます。
- ・充電してもすぐに電池が無くなる場合、ニカド電池の寿命です。新しいニカド電池に交換してください。
- ・ニカド電池の通常の寿命は、通常の使用で約2年です。



Ni-Cd

ニカド電池のリサイクルについて

ニカド電池は、貴重な資源ですのでリサイクルにご協力してください。

使用済みのニカド電池を廃棄する場合、ご購入の販売店またはニカド電池リサイクルの協力店にお持ちください。

7-1. バッテリーボックス(オプション)を接続する

■ 電池を装着する

市販の単3アルカリ乾電池を6本、またはオプションの専用ニカド電池1組を下図の通り装着します。
+ - の方向に注意してください。

電池の取り扱いに関しては、「安全上のご注意」のページをよくお読みください。

電池の挿入準備

ACアダプタ、及び本機とバッテリーボックスは接続しないでください。

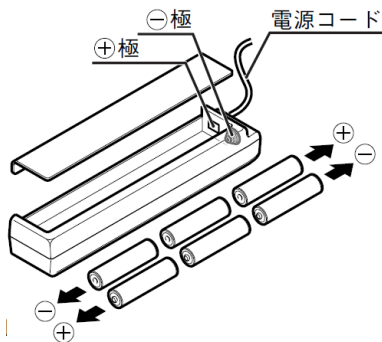
電池の挿入手順

- ① バッテリーボックスのフタをはずします。
- ② 電池を図の通り正しく挿入します。
- ③ フタを取り付けます。

使用電池

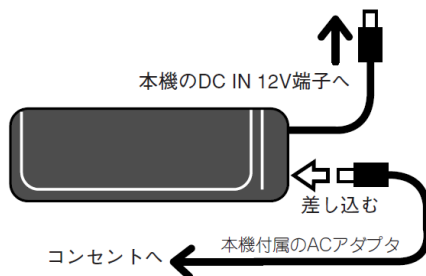
単3アルカリ乾電池6本

またはオプションの専用ニカド電池1組



■ 本機との接続

- ① 本機の電源をOFFにします。
- ② 本機背面の「DC IN 12V」端子にバッテリーボックスのプラグを接続します。
- ③ 本機に付属のACアダプタのプラグを、バッテリーボックスの端子に図のように差し込みます。
- ④ ACアダプタを電源コンセントに接続します。
- ⑤ 本機の電源をONにします。



注意

- 電池の方向を逆向きに挿入しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。液漏れ・発熱・破裂の原因となります。
- 高温多湿の場所での使用は、電池液漏れの要因を増加させます。このような場合は、電池装着はしないようにしてください。
- アルカリ乾電池の液漏れによるトラブルを防ぐため、停電が無くても半年に1回の割合で新しいアルカリ乾電池に交換してください。アルカリ乾電池は停電時に装着することをおすすめします。
- バッテリーボックスから出ているケーブルのプラグを、バッテリーボックスの端子に差し込まないでください。
- バッテリーボックスは、2台以上同時に接続しないでください。

Ⅱ

電話の基本設定

1 基本的な説明

本章では、本機を操作するうえで覚えて頂きたいこと、「INSネット64」のサービスや本機独自の機能について説明します。

1-1. 電話操作説明上の基礎用語

本書で使用される用語を説明します。

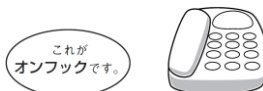
● オフフック

受話器を上げて電話をかけられる状態にすることです。本機では、電話機能の設定を行う場合にも使います。



● オンフック

受話器を電話機に戻し、電話を切る(通話を終了する)ことです。



● フッキング

「フッキング」とは、電話の受話器を置くところ(フック)をスイッチのように押して、すぐに手を離す動作のことです。

電話機によって、「キャッチ(ホン)※」ボタンで代用できます。また、「フッキング代用機能」(P78 VII章1-3. 「フッキングを#ボタンで代用する(フッキング代用)」参照)を使うと、「#」を押すことでフッキングを代用することができます。

フックを押している時間が、0.5秒未満であればフッキングとして認識します。押している時間が0.5秒以上だと電話が切れ、逆に軽く押すだけでは、フッキングとして認識されない場合もあります。

なお、フッキングに関する時間は設定により変更することができます。

※ キャッチ、フック、フラッシュ、フッキングなど表示されていることもあります。



Check!

フッキングの初期値は“無効”です。フッキングを利用するには、VII章 1-1. 「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。

● アナログ電話回線

ISDN回線に対して、従来からの電話回線(一般加入回線)をさします。アナログ回線と呼ぶこともあります。

● Bch(Bチャンネル)・Dch(Dチャンネル)

「INSネット64」サービスでは、ひとつの契約者回線で2つのBチャンネルとひとつのDチャンネルを使用します。Bチャンネルは通話や通常の通信で使用する情報チャンネルです。Dチャンネルは、通話の開始や終了などを制御するチャンネルです。

1-2. INS ネット 64 の付加サービスについて

- 本機で利用できる主な「INSネット64」のサービス

サービス	機能概要	同様な独自機能	参照頁	
フレックスホン	キャッチホン	通話中にかかってきた電話を受ける。	疑似キャッチホン	52
	通信中転送	通話中の電話を別の外線へ転送する。	疑似通信中転送	70
	三者通話	通話中に別の外線にかけて3人で話をする。	疑似三者通話	72
	着信転送	かかってきた電話を別の外線へ自動で転送する。	フリー転送	61
INSなりわけサービス	登録している相手から電話がかかってきたらベルの鳴らし方を変える。 着信を許可する。 ^{※1}	疑似なりわけ	74	
INSボイスワープ [セレクト]	かかってきた電話を別の外線へ自動で転送する。	フリー転送	61	
INSナンバー・ディスプレイ	電話回線の電話番号や、番号通知なしの理由を受ける。		34	
INSナンバー・リクエスト	電話番号を通知してこない相手に交換機が自動応答する。		31	
でんわばん	かかってきた電話に交換機が自動応答する。			
迷惑電話おことわりサービス	登録した相手からかかってきた電話に交換機が自動応答する。		31	
i-ナンバー/ ダイヤルイン	追加の電話番号により呼出すアナログ機器を分ける。		56	
発信者番号通知サービス	電話番号を相手に通知するかしないかの設定。		46	
代表取扱サービス	複数の回線と同じ電話番号で使用する。			

上記のサービスを使用するにはNTTとの契約が必要となります。
各サービスの詳細についてはNTTにお問い合わせください。

※ 本機は、ステイミュラスプロトコルに対応しています。

※1 本機は、着信の禁止/許可を選択する機能はございません。

1-3. 独自機能について

本機ではNTTとの契約なしに利用できる主な独自機能として、次のようなものがあります。
詳細については各機能の説明をご覧ください。

独自機能	機能概要	参照頁
疑似フレックスホン	フレックスホンの機能を2チャンネル使用して本機により同じような機能を提供します。ただし、三者通話のミキシングモードは除きます。	
発信専用	本機のTELポートを発信専用にしたり、着信専用にしたりできます。	48 51
疑似なりわけ	登録している相手から電話がかかってきたときのベルの鳴らし方を変えます。	74
転送同時呼出	フリー転送時、転送先と同時に転送設定しているTELポートを鳴らします。	64

2 TELポート機能を設定するには

本機はさまざまな機能を持っていますが、使用環境や用途に合わせて設定を変更することで、より便利にお使い頂けるようになっています。

電話機能の設定方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

電話機を使った設定

パソコンを使った設定

設定の基本的な手順を説明します。

なお、本取扱説明書では、基本的にTELポートに接続した電話機を使う設定方法で説明しています。

TELポートの設定機能は、下の表のように大分類されています。

大分類された機能は、一部の機能を除きさらに中分類されます。

各機能は、この大分類番号と中分類番号、そして設定内容を表すパラメータを使って設定されます。

設定番号	主な設定内容
#	切断信号(CPC)
0	短縮ダイヤル/共通短縮ダイヤル登録
1	発信制御、なりわけ、ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ、オンネット識別音、メンテナンス用暗証番号
2	フリー転送/着信転送
3	着信制御、i・ナンバー(追加番号)
4	発信者番号通知、通知電話番号
5	i・ナンバー/ダイヤルイン
6	サブアドレス
7	機器種別
8	ダイヤル完了タイマー
9	フッキング制御、受話音量、送話音量、呼出音周波数、ダイヤル方式、フッキング代用、自己アドレス



ワンポイント

- 設定は、本機をISDN回線に接続していなくても行えます。
- TELポートの設定には、個別のTELポートごとに設定が行える“個別設定”と、全TELポートへ有効な“共通設定”があります。

2-1. 電話機を使って設定する

TELポートに接続された電話機のダイヤルを押してプッシュトーンにより機能を設定できます。設定操作の対象は、基本的に接続されているTELポートに対するものとなります。



注意

- ダイヤルパルス(DP)方式の電話機は、電話機の設定をプッシュホン(PB)方式にしてください。
- ダイヤルパルス(DP)方式のみの電話機では、設定をすることはできません。

(1) 機能設定の基本操作

TELポートからの機能設定は、次のような手順になります。機能の説明の「設定」に書かれているボタンとパラメータ(設定する内容によって変わります)を、手順にそって入力してください。

- ① 受話器を取って外線発信状態にし、「大分類番号」を押す



- ② 「*」を押す



- ③ 「中分類番号」※1と「パラメータ」を押す



- ④ 最後に「#」※2を押す

②のあと、受話器から「ツツツツツツツ」という音が聞こえます。

④のあと、受話器から「ツツツツツ…」という音が聞こえ、その後「ツー」という音に変わります。必ず「ツー」という音を確認してください。(次の設定が可能になります。)

操作が正しくないと「ツーツー」という切断音が聞こえますので、受話器を置いて最初から操作をやり直してください。

設定の途中で間違ったときも、受話器を置いて設定を最初からやり直してください。



ワンポイント

- 設定の保存/変更
設定は、自動保存されますので電源を切っても設定は消えません。
設定の変更を行うと以前の設定に対して上書きされます。
- パラメータとは
設定内容により変わる内容です。下の例では(電話番号)がパラメータです。
9 * 80(電話番号)#
電話番号が「01-2345-6789」のときは市外局番から
9 * 800123456789#
と押します。
- 大分類? 中分類?
個々の機能の設定を行うときは、大分類・中分類という名前にこだわらなくても大丈夫です。
本書の「設定手順」に書いてある順番で電話機のボタンを押してください。

※1 中分類のない機能もあります。

※2 「#」を押す必要のない機能もあります。



ワンポイント

便利な設定方法

全ポート同一設定

一度にすべてのTELポートを同じ設定にすることができます。^{※3}

《操作》

- ① 受話器を取り、「* → # → *」を押します。
- ② 通常設定操作を行います。

便利な設定方法

他ポート設定

他のTELポートの設定を行うことができます。^{※3・※4}

《操作》

- ① 「* → # → 設定する他TELポート番号」を押します。
- ② 通常設定操作を行います。

※3 続けて全ポート同一設定や、他ポート設定を行う場合には、そのつど「***」や「*#(設定する他TELポート番号)」を押してください。

※4 使用しているTELポート番号も指定できます。

2-2. パソコンを使って設定する

本機付属のCD-ROMに収められた設定ユーティリティはUSBポート・DATAポートに接続したパソコンから、各種機能の設定を行うことができます。

ご利用頂くには、CD-ROMの設定ユーティリティをお使いのパソコンにインストールする必要があります。インストールの方法は、以下の説明を参考にしてください。



注意

- 設定ユーティリティはWindows 2000/XP/Vista/7で動作します。
- 設定ユーティリティはDATAポートかUSBポート経由で設定を行います。TELポート経由では、設定を行えません。
- 設定ユーティリティをUSBでご利用になる場合は、予めUSBドライバをインストールする必要があります(USBのインストール方法は、添付CD-ROMをご参照ください)。

■ 設定ユーティリティのインストール

添付のCD-ROMには、各機種毎の設定ユーティリティソフトが収録されています。

下記のインストール方法に従って、お手持ちのパソコンにユーティリティをインストールしてください。

- ① 添付のCD-ROMをご利用のパソコンにセットします。
- ② CD-ROMのメニュー画面が、表示されます。
本機の機種名をクリックします。
- ③ 本機のメニュー画面で、「設定ユーティリティのインストール」をクリックします。
インストールを開始します。以後画面の指示に従って、インストール先を指定してください。

■ 設定ユーティリティの使い方

(1) 起動方法

設定ユーティリティは次の方法で起動します。

- ① 本機DATAポートとパソコンのRS-232Cポート、もしくは本機USBポートとパソコンのUSBポートが接続されていることを確認します。
- ② タスクバーから「TDC200 設定ユーティリティ」を起動します。



注意

他の通信ソフトが通信ポートを使用している場合、設定ユーティリティは起動しません。
通信ポートを未使用状態にしたあとで、該当する通信ソフトを終了してください。

(2) 設定の変更

- ① 設定を行う「TELポート」のボタンをクリックします。
- ② 設定を変更します。
別のTELポートの設定を行うときは、①から繰り返してください。
- ③ 「設定」ボタンをクリックします。
本機へ設定内容が送信されます。
設定には、数秒かかることがあります。



ワンポイント

設定完了後に本機への設定をパソコンに保存しておくことをお奨めします。
保存は、ユーティリティ画面左上の「ファイル(F)」→「設定を保存(A)」の実行で、設定を保存できます。
パソコンに保存した設定を設定ユーティリティに読み込むには、「ファイル(F)」→「設定を開く(O)」を実行してください。

(3) 終了方法

- 「閉じる」ボタンをクリックします。
「設定」の変更をキャンセルする場合も同様です。

2-3. 設定を初期化する

本機的全設定を初期化するには、次の手順で行ってください。

- ① 本機の電源を切った状態で、ファンクションキーを押します。
- ② ファンクションキーを押したまま、本機の電源を入れます。
- ③ 本機的全LEDが点灯しますが、ファンクションキーは押し続けてください。
- ④ 4つのLED(ACT, TEL2, DATA, RDY)のみ点灯に変わればファンクションキーを放してください。
- ⑤ 3つのLED(TEL2, DATA, RDY)が消灯すると初期化終了です。
※ パソコンなどを接続しているとRDYやDATAが消灯しないこともあります。



ご注意

- 初期化操作時は、初期化が終了するまで本機の電源を切らないでください。
- 本操作を行うとDATAポートの設定を含めて全て工場出荷値に戻りますので十分にご注意ください。
ただし、次の設定は初期化されません。
 - ・ USBの設定
 - ・ メンテナンス用暗証番号



ワンポイント

TELポート関係の設定のみ初期化するには、パソコンにより設定ユーティリティで行う必要があります
(短縮/共通短縮ダイヤルも初期化されます)。

3 電話番号を登録する

電話サービスの内容によっては、本機に電話番号を登録する必要があります。

3-1. 契約者回線番号の登録(自己アドレス)

発信時に使用します。

INSボイスワープ/INSナンバー・リクエスト/迷惑電話おことわりサービスなど電話番号ごとの電話サービスが必要な場合があります。

設定手順 共通設定

本機のTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

自己アドレス 登録

9 → * → 8 → 0 → 電話番号 → #

* 電話番号は市外局番から登録する。最大21桁

削除[初期値]

9 → * → 8 → 0 → #

4 アナログ機器を使うには

4-1. ダイヤルパルス方式の電話機を使う

ダイヤルパルス方式の電話機を、使用できるようにするための設定です。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

PB(プッシュホン)方式の電話機を利用する[初期値]	9 → * → 7 → 0
DP(ダイヤルパルス)方式の電話機を利用する	9 → * → 7 → 1



ご注意

- ダイヤルパルス方式の電話機から、本設定を行うことはできません。プッシュホン方式の電話機を接続して設定するか、付属の設定ユーティリティを使って設定を行ってください。
- ダイヤルパルス方式に設定すると、フッキングを使って操作する機能(フレックスホンなど)は利用できません。
- ダイヤルパルス方式の電話機の構造上、「*」や「#」を使用する機能は利用できません。
- 電話機の接続コネクタ形状によっては、接続できない場合があります。接続する電話機側の接続コネクタが、本機のTELポートに接続できる形状のものかどうか確認してください。



ワンポイント

- ダイヤルパルス方式に設定した場合でも、プッシュホン方式の電話で発着信可能です。

4-2. 自動発信装置や回線選択装置を使う

ダイヤル完了タイマーとして設定されたダイヤル間の時間を超えると、#を押さなくてもダイヤルした電話番号へ電話をかけます。

回線選択装置(LCR, α -ALPHA, ACR等)を接続して正常に動作しない場合は、時間を長めに設定してください。

自動発信装置で正常に発信できない場合は、時間を短く設定してください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

ダイヤル完了タイマー n 秒[初期値 n=4] 8 → * → n
* n は、0～9の数字。0は15秒と見なします。



注意

設定時間を超えるとダイヤル完了とみなし、それまでに押した番号で発信してしまいます。ダイヤル入力の間隔をあけすぎないようにご注意ください。



ワンポイント

- 回線選択装置を使用する場合は、9秒が目安です。
- ダイヤル桁間タイマーとも呼ばれます。

4-3. ナンバー・ディスプレイ対応電話機を使う

ナンバー・ディスプレイ対応電話機を利用するときに設定します。

電話を受ける前にかかってきた相手の電話番号(発信者番号)を、電話機に表示させることができます。ただし、キャッチホンの通知(割込音)では、電話番号の表示をしません。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ

全て禁止[初期値]

1 → * → 5 → 0

ナンバー・ディスプレイのみ利用

1 → * → 5 → 1



ワンポイント

INSナンバー・ディスプレイ未契約でも・・・

本機へ発信者番号が通知されていれば相手の電話番号をナンバー・ディスプレイ対応電話機に表示できます。電話番号が通知されないときは「ケンガイ(圏外)」を表示します。

INSナンバー・ディスプレイを契約すると

アナログ電話回線からかかってきた相手の電話番号も、表示できます。

また電話番号が通知されないときは非通知理由を表示します。



ご注意

- 本設定と電話機の設定を必ず一致させてください。
- ナンバー・ディスプレイ非対応の電話機を接続する場合、必ず「全て禁止(1*50)」に設定してください。「ナンバー・ディスプレイのみ利用する(1*51)」に設定すると、通常より短い間隔の呼出ベルが鳴るなど、誤動作することがあります。
- INSなりわけ、疑似なりわけ、及びオンネット識別音を短いベルにしたとき、正常に動作しないナンバー・ディスプレイ対応電話機があります。
このような場合、どちらかの機能を使用しないでください。
- ナンバー・ディスプレイの設定を行うと呼出ベルが2回程度遅れます。
- 128K通信時は、ナンバー・ディスプレイを行わず呼出ベルだけとなります。
- 内線からかかってきたときは、各TELポート番号のみ表示します。
例) TEL1ポートから内線電話がかかってきたときは、次のように表示されます。

1

4-4. キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を使う

キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を利用するときに設定します。
電話を受ける前、または通話中にかかってきた相手の電話番号(発信者番号)も、電話機に表示させることができます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ

全て禁止[初期値]

1 → * → 5 → 0

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイを利用

1 → * → 5 → 2



ワンポイント

キャッチホンの割り込み着信時以外は、ナンバー・ディスプレイと同じ動作です。



ご注意

- 本設定と電話機の設定を必ず一致させてください。
- 通話中にかかってきた相手の電話番号を表示するとき、約1秒間無音になります。

Check!

通話中にかかってきた相手の電話番号(発信者番号)を表示させたい場合は、本機にキャッチホンの設定(IV章4「通話中にかかってきた電話を受けるには」(P52)を行ってください。

4-5. ネーム・ディスプレイ対応電話機を使う

ご注意！！

NTT東日本およびNTT西日本の「ネーム・ディスプレイ」サービスは、平成25年2月28日に終了しました。

ネーム・ディスプレイ対応電話機に本設定を入力した場合、「ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイを利用」として動作を行います。

電話を受ける前、または通話中にかかってきた相手の電話番号(発信者番号)も、電話機に表示させることができます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ

全て禁止[初期値]

1 → * → 5 → 0

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ

全て許可

1 → * → 5 → 4



ご注意

- 本設定と電話機の設定を必ず一致させてください。
- INSなりわけ、疑似なりわけ、及び内線呼出ベルを短いサイクルのベルにしたとき、正常に動作しないネーム・ディスプレイ対応電話機があります。このような場合、どちらかの機能を使用しないでください。
- 本設定を行うと呼出ベルが2回程度遅れます。
- 128K通信時は、ナンバー・ディスプレイを行わず呼出ベルだけとなります。
- 内線からかかってきたときは、各TELポート番号のみ表示します。
例) TEL1ポートから内線電話がかかってきたときは、次のように表示されます。

1

4-6. アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン対応機器を使う

アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン対応の機器を利用するときに設定します。

アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン対応の機器を本機のTELポートに接続することにより、機器の電話機にそれぞれ電話番号を割り当てて、特定の電話機を呼び出したり、複数の電話機を一度に呼び出したりすることができます。

アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン機能をご利用になられる場合、INSネット64付加サービスの「ダイヤルイン」または、「i・ナンバー」の契約が必要です。

- アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン対応機器へ着信番号を通知する/しないを設定してください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン禁止[初期値] 1 → * → 5 → 8 → 0
アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン許可 1 → * → 5 → 8 → 1

- 「アナログ(PB方式)ダイヤルイン」と「モデムダイヤルイン」の切替は、各TELポート毎のナンバー・ディスプレイ設定により、自動的に切り替わります。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

アナログ(PB方式)ダイヤルイン[初期値] 1 → * → 5 → 0
モデムダイヤルイン 1 → * → 5 → 1, 2, 4
(ナンバー・ディスプレイの許可設定)

- アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン対応機器へ着番号を通知するときの桁数をお使いになる対応機器に合わせて設定してください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

通知された番号の全て 1 → * → 5 → 9 → 0
通知された番号の下1桁 1 → * → 5 → 9 → 1
通知された番号の下2桁 1 → * → 5 → 9 → 2
通知された番号の下3桁 1 → * → 5 → 9 → 3
通知された番号の下4桁[初期値] 1 → * → 5 → 9 → 4



ワンポイント

アナログ(PB方式)/モデムダイヤルラインをご使用になる場合、下記の設定が必要になります。

- ご使用にならないTELポートに「着信禁止」を設定。
- 契約者回線番号を「自己アドレス」に設定。
- i・ナンバーをご使用になる場合、「i・ナンバー追加番号1, 2」を設定。
- TELポート毎に着信させる番号を設定。(「i・ナンバー/ダイヤルライン」の項目を参照)



ご注意

- アナログ(PB方式)/モデムダイヤルラインの“禁止/許可”の設定はTELポートに接続する機器に必ず合わせてください。機器が正常に動作しない可能性があります。
- 通知する番号の桁数の設定は、対応機器に合わせて行ってください。機器が正常に動作しない可能性があります。
- 契約者回線番号による着信は、本機の自己アドレスに設定された番号を着番号として通知します。契約者回線番号を「自己アドレス」に市外局番から必ず設定してください。
- i・ナンバーによる着信は、本機のi・ナンバー追加番号1, 2に設定された番号を着信番号として通知します。
i・ナンバーの追加番号を「i・ナンバー追加番号1, 2」に市外局番から必ず設定してください。
- アナログ(PB方式)/モデムダイヤルライン許可を設定したTELポートへ、内線や内線転送ができなくなることがあります。
- 内線はTELポート番号10桁(TEL1:1111111111)を着番号として通知します。
通知桁数は、設定に従います。
- アナログ(PB方式)ダイヤルラインをご利用の場合“、INSなりわけ”“、疑似なりわけ”の機能は、ご利用できません。
- アナログ(PB方式)/モデムダイヤルラインをご使用になる本機のTELポートには、遅延呼出設定をしないでください。
- 割り込み着信(キャッチホン・ディスプレイ)のときは、着番号を通知しません。
- 通知桁数の指定で“1 * 590:全て”を指定され、着番号桁数が自己アドレスの桁数より小さい場合、自己アドレスの先頭からその桁数分、着番号の先頭に付加して通知します。
- 優先着信なしの設定で、アナログ(PB方式)/モデムダイヤルライン対応のファクシミリ等をご利用になる場合、機器が着信出来ない時、発信者側には、“呼出音(ブルブル)”のあとに“ビジー音(ツーツー)”になることがあります。

5 電話の音量を調整するには

5-1. 受話音量の調整

電話の受話音量を調整します。0~4まで設定できます。

0が最も小さな音量(音を消すものではありません)、4は最も大きい音量設定です。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

最小	9 → * → 5 → 0 → 0
小	9 → * → 5 → 0 → 1
中[初期値]	9 → * → 5 → 0 → 2
大	9 → * → 5 → 0 → 3
最大	9 → * → 5 → 0 → 4

5-2. 送話音量の調整

電話の送話音量を調整します。0~4まで設定できます。

0が最も小さな音量(音を消すものではありません)、4は最も大きい音量設定です。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

最小	9 → * → 5 → 1 → 0
小	9 → * → 5 → 1 → 1
中[初期値]	9 → * → 5 → 1 → 2
大	9 → * → 5 → 1 → 3
最大	9 → * → 5 → 1 → 4

6 短縮/共通短縮ダイヤルを登録/変更するには

本機には、各TELポートごとの短縮ダイヤルと全TELポート共通の共通短縮ダイヤルの2種類を登録することができます。登録可能な電話番号は21桁です。

短縮/共通短縮ダイヤルは、電話をかけるだけでなく他の機能の相手登録にも利用します。

短縮ダイヤルの短縮番号 : 00~19 (TELポートごと各20件)

共通短縮ダイヤルの短縮番号 : 20~59 (TELポート共通で40件)

設定手順 個別/共通設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押しして設定します。

短縮/共通短縮ダイヤルの番号登録 0 → * → 短縮番号 → 電話番号 → #
番号削除 0 → * → 短縮番号 → #



注意

- 短縮番号は必ず2桁で設定してください。
- *、#、ポーズは、登録できません。



ワンポイント

サブアドレス番号を登録する方法

電話番号を入れたあとに「*」を続けて押し、最後に「#」を押します。

例: 短縮番号01に「01-2345-6789」サブアドレス番号2を登録

0 * 010123456789 * 2#

関連する機能

- 短縮/共通短縮ダイヤルと連動する機能
疑似なりわけ(P74)

Ⅲ

電話の発信

1 電話をかけるには

ここでは、一般的な電話のかけ方を説明します。

1-1. 外線にかける

操作手順

電話番号 → # の順に押す

操作例

TELポートに接続した電話機から外線にかける

- ① 受話器を取って外線発信状態にします。
- ② 「電話番号」(1～32桁)を押します。
- ③ 続けて「#」を押します(プッシュホン方式のみ)。
「#」を押さなかったときは、ダイヤル完了タイマーが経過したあと(初期値は4秒)発信します。



ワンポイント

基本操作は通常の電話操作と同一ですが、相手先の「電話番号」に続けて「#」を押すことで、すぐに発信を行い、相手に早くつながるようになります(プッシュホン方式のみ)。

1-2. 短縮/共通短縮ダイヤルで電話をかける

ここでは、短縮/共通短縮ダイヤルを使ってかける方法を説明します。

短縮番号は、各TELポートごとに00～19で、共通短縮番号は、全TELポート共通で20～59です。

操作手順

* → 短縮/共通短縮ダイヤルの順に押す

操作例

短縮番号「01」にかける

- ① 受話器を取って外線発信状態にします。
- ② 「*」を押します。
- ③ 短縮番号「01」を押します。

1-3. #などの記号を含む番号にかける(特殊ダイヤル)

「#」や「*」を含む番号は、大きく次の2種類に分類できます。

タイプ1 : 「#」のあとに数桁の数字が続く番号(チケット予約や伝言ダイヤルなど)

タイプ2 : 「#」や「*」を含むが、タイプ1以外の番号

タイプ1は、普通の電話番号とまったく同じ方法でかけることができます。

タイプ2のときだけ、フッキングを使うことが必要になります。

操作手順

タイプ1 : # → 番号 → # の順に押す

タイプ2 : [フッキング] → 特殊番号 → [フッキング] の順に押す

操作例

タイプ2の番号で電話をかける

- ① 受話器を取って外線発信状態にします。
- ② 「フッキング」します。
- ③ ダイヤルトーン(音)が消えたことを確認します。
- ④ 「特殊番号」を押します。
- ⑤ もう一度「フッキング」をすると発信します。
またはダイヤル完了タイマーが経過したあと発信します。

特殊ダイヤルをキャンセルするには、いったんオンフックしてください。

Check!

フッキングの初期値は「無効」です。フッキングを利用するには、Ⅶ章1-1. 「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。

1-4. 他の TEL ポートを呼び出す(内線呼出)

他のTELポートに接続されている電話機を呼び出して、内線通話をすることができます。

操作手順

0 → TELポート番号 → # の順に押す

* TELポート番号は、1, 2

操作例

TEL2ポートに内線をかける

- ① TEL1ポートの受話器を取って外線発信状態にします。
- ② 「0」と「2」(呼び出したい電話が接続されているTELポート番号)と「#」を押してください。
- ③ TEL2ポート(指定したTELポート)の電話が鳴り、相手が受話器を取ると話ができます。



ワンポイント

電話番号が異なる以外、通常の外線発信と同じ操作です。

1-5. 通話を保留にして別の相手に電話をかける(通信中発信)

通話中に、電話を切らずに別のの人に電話をかけられる機能です。
通信中発信は、通信中転送や三者通話のときに使います。



注意

通信中発信の制限事項

- フレックスホンの通信中転送か三者通話を契約していますとフレックスホンでの通信中発信になります。
- フレックスホンによる通信中発信は、発信先の相手により接続できない場合があります。
- 他のポートで通話・通信を行っているときは、疑似フレックスホンによる通信中発信はできません。

操作手順

通話保留、発信 [フッキング] → 1 → 電話番号 → # の順に押す

操作例

通話中に、新しい相手に電話をかける

- ① 通話中に、「フッキング」をして「1」を押します。※
通話中の相手は保留になって、電話をかけられる状態になります。
- ② 「ツウ、ツウ、ツウ」という音を確認します。
- ③ 新しい相手の「電話番号#」(または「* 短縮番号」)を押します。
相手が出たら話ができます。

※ 「1」を押さずにいると、「ツツツツツ…」という音が3秒後に「ツウ、ツウ、ツウ」という音に変化し、電話がかけられる状態になります。



ワンポイント

- 通信中発信に失敗した場合は？
保留中の相手がいると、オンフック時に呼出ベルが鳴ります。
受話器を取ると、通話が再開できます。
- 通話中の相手を切り替えるには？
 - ① 「フッキング」をして、「1」を押します。※
 - ② あとからかけた相手が保留になり、はじめの相手と話せるようになります。※ フッキングと「1」で、交互に相手を切り替えることができます。
フッキング後、「1」を押し忘れても約3秒後に相手が切り替わります。

Check!

フッキングの初期値は「無効」です。フッキングを利用するには、Ⅶ章1-1. 「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。

2 電話をかけるときに電話番号を通知するには (発信者番号通知)

2-1. 発信者番号通知の方法を決める

相手にこちらの電話番号を通知する/しないの選択ができます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

電話番号を通知しない	4 → * → 0
電話番号を通知する	4 → * → 1
契約による[初期値]	4 → * → 2



注意

- 契約による設定とは？
「INSネット64」のお申込み時にどのような契約をしたかによって、通知の有無が変わってきます。
「通常通知」の場合、電話番号を通知します。
「通常非通知」の場合、電話番号を通知しません。
- 優先順位について
通知する/しないの優先順位は、「契約」より「本機の設定」が優先されます。
また、「本機の設定」より「特番(184, 186)」が優先されます。

2-2. 発信ごとに電話番号を通知する/しないを指定する

電話をかけるときに、発信者番号通知の設定を一時的に変更することができます。

操作手順

電話番号を知らせない	1 → 8 → 4 → 電話番号 → # の順に押す
電話番号を知らせる	1 → 8 → 6 → 電話番号 → # の順に押す

3 通知する電話番号を選ぶには

本機能はTELポートから発信する場合にISDN交換機に通知する電話番号を選びます。

- ・ 着信用番号 着信用の設定(5*)に登録された電話番号を通知します。
着信用の設定(5*)に電話番号がないときは自己アドレスを通知します。
- ・ 自己アドレス 9*80の設定に登録された電話番号を通知します。
- ・ 追加番号1 3*8の設定に登録された電話番号を通知します。
- ・ 追加番号2 3**の設定に登録された電話番号を通知します。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

通知電話番号	着信用番号[初期値]	4 → * → 3 → 0
	自己アドレス	4 → * → 3 → 1
	追加番号1	4 → * → 3 → 2
	追加番号2	4 → * → 3 → 3



ワンポイント

- 電話番号の登録がないときはISDN交換機に電話番号を通知しません。
- NTTの付加サービスを利用されていないときは、特に設定変更の必要はありません。
- ダイヤルインサービスを利用している場合、i・ナンバーの追加番号は発信用の設定としてご利用できます。



ご注意

- 契約以外の電話番号を設定しないようにしてください。
- 本設定により通知された電話番号が着信側に通知されますが、間違った電話番号や通知なしのときはISDN回線が契約者回線番号を着信側に通知します。

4 その他の発信機能

4-1. 外線発信を禁止する

TELポートからの外線発信を禁止し、着信専用にできます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

発信許可 [初期値]	1 → * → 1 → 0
発信禁止	1 → * → 1 → 1



ご注意

発信禁止にすると、すべての外線発信を禁止します。
ただし、緊急電話(110番などの1XYの3桁)、フリー転送/着信転送は除きます。
また、内線発信と内線転送は利用できます。

4-2. サブアドレスを指定して発信する

相手側の電話がサブアドレスを設定している場合、サブアドレスをつけて電話をかけることができます。
発信者番号通知の設定になっている場合、TELポートに設定しているサブアドレスも通知されます。

操作手順

電話番号 → * → サブアドレス番号 → # の順に押す
* サブアドレス番号には、1～19桁の数字を入力します。



ご注意

サブアドレスは、着信側の回線(ISDN回線や携帯電話・PHS)や通信機器が対応している必要があります。

IV

電話の着信

1 電話を受けるには

電話の受けかたは普通の電話と同じです。

操作例

電話を受ける

- ① 接続している電話器が鳴ります。
- ② 受話器を上げて、話します。

2 優先的に呼び出す電話機を決めるには (優先着信)

優先着信を設定したTELポートは、他のTELポートよりも優先的に呼び出し、設定したTELポートが使用中の場合にのみ、他のTELポートに接続された電話機を呼び出します。

設定手順 共通設定

本機のTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

優先TELポートなし	3 → * → 3 → 0
TEL1ポート優先 [初期値]	3 → * → 3 → 1
TEL2ポート優先	3 → * → 3 → 2



ワンポイント

- 全TELポートを同時に呼び出すには？
全TELポートを同時に着信させて呼び出すには、優先着信を「なし」にします。
その際、いっせいに呼び出さずTEL1から順番に呼び出します。



ご注意

- 優先着信と割込着信許可(キャッチホン)の両方を指定していると、他のTELポートに接続された電話機は呼び出されなくなります。
- 設定内容(i・ナンバー/ダイヤルイン等)により、優先着信が無効になる場合があります。

3 外線からの着信を禁止するには(着信禁止)

すべての着信を禁止し、電話やFAXを発信専用に使えます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

着信禁止 3 → * → 0
通常着信[初期値] 3 → * → 1

使用例

- TEL2を発信専用にする

ポート	接続機器	着信	電話設定
TEL1	電話機	通常着信	3 * 1
TEL2	電話機	発信専用	3 * 0



ワンポイント

- 着信禁止にしても、緊急電話(110番などの1XYの3桁)、内線呼出(P44)、内線転送(P69)は、着信します。
- 着信禁止の状態でも、フリー転送(P60)の機能は働きます。



ご注意

TELポートを使わないときは、着信禁止「3 * 0」を設定してください。

4 通話中にかかってくる電話を受けるには (キャッチホン)

キャッチホンは、通話中に外線から電話がかかってきたときにそれに応答したり、通話相手を切り替えて交互に通話する機能です。内線と通話中に、外線からの電話にも対応することができます。また、三者通話や通信中転送に移行することもできます。本設定とフッキング許可の設定を行うことにより使えるようになります。

通話中に外線から電話を受ける機能には、契約が必要な「INSキャッチホン」と契約が不要な「疑似キャッチホン」の2種類があります。設定や操作は同じですが、疑似キャッチホンには、いくつかの制限があります。(契約の有無は、本機の起動時に判別します)
INSキャッチホンは、フレックスホンのコールウェイティング機能の商品名称です。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

通常着信[初期値]	3 → * → 1
割込着信許可	3 → * → 2



ご注意

- 疑似キャッチホン中に、新たな通話・通信をすることはできません。
- 他のポートで通話・通信を行っているときは、疑似キャッチホンを使用することはできません。
- 疑似キャッチホンでは、「通信中着信通知サービス」を契約していて、2つのポートで通話・通信を行っている場合、割込音で着信通知がされても電話を切り替えることができません。割り込みの電話を受けるには、通話中の電話を終了する必要があります。
- 「通信中着信通知サービス」を申し込んでいないとINSキャッチホンの契約をしていても、他のポートで通話・通信していると着信が通知されません。
- 2通話中に新たな着信があると、TEL1ポートにのみ割込音がします。
- フッキング操作が長くなると、オンフック/オフフックとなり、最初の相手との通話は保留にならずに切断されます。
- 内線通話中に割り込み着信があると、TEL1のみ割り込み着信をします。

4-1. 割込着信の方法

割込着信が許可されていると、通話中でも外線の割込着信音が聞こえるようになります。このとき通話を保留にして、外線を受けることができます。内線通話・外線通話のいずれでも割込着信を受けることができます。

操作手順

[フッキング]する

Check!

- フッキングの初期値は“無効”です。フッキングを利用するには、Ⅶ章1-1.「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。
- 初期設定では割込着信は許可されていません。

使用例

- 通話中にかかってきた電話を受ける
 - ① 通話中に、受話器から「ブツッ、ブツッ」という割込音が聞こえます。
 - ② 「フッキング」します。
 - ③ 通話中の相手は保留になり、あとからかかってきた相手と話せるようになります。
- もう一度はじめの相手と話す(切替)
 - ① 「フッキング」をして、「1」を押します。
 - ② あとからかけてきた相手が保留になり、はじめの相手と話せるようになります。フッキングと「1」で、交互に相手を切り替えることができます。フッキング後、「1」を押し忘れても約3秒後に相手が切り替わります。
- キャッチホンで受けた電話を切る
 - ① 相手と話が終わったら受話器を戻します(オンフック)。
 - ② 保留中の相手がいるときは、呼出ベルが鳴ります。
 - ③ 受話器を取ってください。



注意

- 優先着信と割込着信許可(キャッチホン)の両方を指定していると、他のTELポートに接続された電話機は呼び出されなくなります。
- 内線通話中に割込着信を受けると、内線通話は切断されます。
- ダイヤルパルス方式の設定では、本機能はご利用できません。

5 この通話中だけキャッチホンを禁止するには

FAX送信など送信中に割り込みが入ると都合の悪いときに、通信中の割込着信を一時的に禁止することができます。

操作手順

1 → 8 → 0 → 電話番号 → # の順に押す

操作例

この通話中だけ割込着信を禁止する

- ① 受話器を取って外線発信状態にします。
- ② 「180」を押します。
- ③ 相手の「電話番号」を押し、最後に「#」を押します。



注意

内線転送を行うと無効になります。

6 他の電話よりも遅らせてベルを鳴らすには (遅延呼出)

着信後、設定回数分遅らせて呼出ベルを鳴らします。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

呼出ベルを n 回分遅らせて呼出[初期値 n=0(同時に鳴らす)]

3 → * → 4 → n

*n は0~9の数字



ワンポイント

着信は受け付けていますので、他の電話機が鳴りはじめたら、設定した電話機が鳴っていないくても、受話器を取れば電話はつながります。

7 電話機やFAXにそれぞれ専用の電話番号を使うには(i・ナンバー/ダイヤルイン)



ワンポイント

- NTTとの契約が必要な機能です。
- ダイヤルインの設定は、着信TELポートに追加番号の設定をします。
- i・ナンバーの設定は、i・ナンバーの追加番号登録と着信TELポートに追加番号の設定をします。
i・ナンバーの設定は、ダイヤルインに比べて、追加番号登録が必要なこと以外同じです。

1つの回線で、電話機とFAXのように電話番号を分けて利用される場合は、i・ナンバーかダイヤルインいずれかの付加サービス(有料)を契約して本機の設定を行う必要があります。契約することにより追加の電話番号(追加番号)が使えるようになります。



付加サービスには、下記の2種類があります。

i・ナンバー : 基本料金はダイヤルインより安価ですが、追加番号は2つまでしか契約できません。サービスを契約する電話回線の番号(契約者回線番号)を含めて3つまでです。

ダイヤルイン : 基本料金は高いが、追加番号が3つ以上契約できます。

※ 料金や詳細な違いはNTTにお問い合わせください。

※ ダイヤルインを契約する場合は、「グローバル着信を利用する」オプションを指定してください。

i・ナンバー利用の方のみ以下の設定を行ってください。

設定手順 共通設定

本機のTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

追加番号1	登録	3 → *	8 →	電話番号	→ #
	削除[初期値]	3 → *	8 →	#	
追加番号2	登録	3 → *	* →	電話番号	→ #
	削除[初期値]	3 → *	* →	#	

* 電話番号は市外局番から登録する。最大21桁



ご注意

- i・ナンバー(2番号)での契約時は、追加番号1に登録してください。
- i・ナンバー(3番号)での契約時は、追加番号1, 2に登録してください。
- DATAやUSBポートでi・ナンバーを使われるときも本設定を行ってください。
- 契約者回線番号を「自己アドレス」に、市外局番から設定(9*80電話番号#)してください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

i-ナンバー/ダイヤルインの設定

契約者回線番号のみ着信 [初期値]

5 → * → * → #

追加番号のみ着信

5 → * → * → 追加番号 → #

契約者回線番号と追加番号の両方着信

5 → * → 追加番号 → #

電話番号による着信区別を行わない

5 → * → #

* 追加番号は、市外局番から登録する

使用例

- 電話機に契約者回線番号を着信、FAXに追加番号を着信させる

ポート	接続機器	着信	電話設定
TEL1	電話機	契約者回線番号のみ着信	5 * * #
TEL2	FAX	追加番号のみ着信	5 * * (追加番号)#

- 電話機に契約者回線番号を着信、FAXに契約者回線番号と追加番号を着信させる

ポート	接続機器	着信	電話設定
TEL1	電話機	契約者回線番号のみ着信	5 * * #
TEL2	FAX	追加番号+契約者回線番号も着信	5 * (追加番号)#



ワンポイント

追加番号の比較は、全桁を比較するわけではありません。

例えば、「1111-2222」の追加番号をTELポートに「2222」や「00-1111-2222」と設定した場合でも着信は受け付けます。



ご注意

通知する電話番号の設定 (P47参照) が初期値の場合、登録する追加番号が正しくないと発信時に相手側に通知される電話番号は契約者回線番号となります。

8 サブアドレスを使うには

本機は、「INSネット64」の基本サービス(無料)である「サブアドレス通知サービス」を発着信ともに利用できます。

● 着信時にサブアドレスを識別する

TELポートにサブアドレスを設定しておく、「i・ナンバー/ダイヤルインサービス」の契約をしなくてもTELポートを指定して電話を受けることができます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

設定サブアドレスのみ着信 6 → * → * → サブアドレス番号 → #

設定サブアドレス+サブアドレスなしのみ着信

6 → * → サブアドレス番号 → #

サブアドレスなしのみ着信

6 → * → * → #

サブアドレス識別しない[初期値]

6 → * → #

* サブアドレス番号には、1～19桁の数字を入力します。



ワンポイント

● i・ナンバー/ダイヤルインとサブアドレスの違い

i・ナンバー/ダイヤルインは有料なのに対し、サブアドレスは無料のサービスです。

ただし、i・ナンバー/ダイヤルインは発信者側の電話の種類(ISDNかどうかなど)に関係なく使えます。一方、サブアドレスは、発信者側がサブアドレス発信できるものに限られます。

用途に合わせて選択してください。



ご注意

● ISDN回線に接続された機器(ISDN公衆電話など)やサブアドレス機能付きの携帯電話・PHSから電話をかける必要があります。

● サブアドレスは、完全に一致した着信のみ受け付けられます。サブアドレス「01」と「1」は、別のものとみなされます。

V

電話の転送

1 転送とは

電話の転送には、電話を受けずに転送する「自動転送」と受けた電話を転送する「手動転送」があります。

自動転送には、契約が不要な「フリー転送」、契約が必要な「フレックスホンの着信転送（以後、着信転送とします）」とINSボイスワープの3種類があります。

INSボイスワープの本機への設定は、自己アドレス(P31 参照)の設定になります。
転送先電話番号の登録等の設定は、本機を経由してNTT回線の交換機に設定を行います。

フリー転送と着信転送は、本機に設定を行います。

設定方法は、フリー転送と着信転送は一部を除き同じ設定です。

契約の有無は、本機の起動時に判断します。

契約を行っている到着信転送を優先して行い、着信転送が利用不可ならフリー転送に切り替わります（着信転送は、前回転送した通話が続いていると転送できません）。

フリー転送と着信転送の違いは

	フリー転送	着信転送
契約	不要	必要
転送セット/解除方法	同じ	
転送先登録	同じ	
転送中の通話・通信	不可	可
転送同時呼出	○	×
転送アナウンス	×	○
リモート設定	同じ	
通知される電話番号	接続回線番号	発信者の番号

手動転送には、契約不要な「疑似通信中転送」と契約が必要な「フレックスホンの通信中転送」があります。設定方法と操作方法は、いずれも同じです。

契約の有無は、本機の起動時に判断します。契約を行っている場合、疑似通信中転送は使用できません。



注意

- フリー転送や疑似通信中転送は、他のポートが使用中の場合転送できません。
- フリー転送で、他のポートが使用中のため転送に失敗したとき、次のようになります。
転送同時呼出しない : 発信者には話中音が返ります。
転送同時呼出する : TELポートに着信します。

2 かかってきた電話を自動的に別の電話に転送するには(フリー転送/着信転送)

かかってきた電話に应答せずに、別の相手に転送する機能です。契約が不要な「フリー転送」と、契約が必要な「着信転送」があります。フリー転送は、転送利用中の通話ができないなどの制限がありますが、転送同時呼出のような着信転送にない機能も備えています。

● 基本的な転送設定

かかってきた電話を転送したいときに手で転送セットをする場合は次の設定をします。

- ① 転送先電話番号を登録します。
V章2-2.「転送先の電話番号の登録/変更/削除する」(P63)参照
- ② 転送のセットをします。
V章2-1.「転送をする/やめる」(P62)参照
これでかかってきた電話は転送されます。

その後、転送する必要がなくなった場合には次の設定をします。

- ③ 転送の解除をします。
V章2-1.「転送をする/やめる」(P62)参照

使用例

● かかってきた電話をすべて転送する

転送先が「01-2345-6789」で、すべてのTELポートで無条件に転送する場合。

i-ナンバーやダイヤルインによる追加番号で、着信するTELポートを分けている場合は、転送を行いたいTELポートにのみ転送先電話番号を登録してください(***は、不要です)。

設定機能	操作	備考
転送先電話番号登録	***2*20123456789# (全TEL一括登録)	転送先電話番号は 01-2345-6789
転送セット	#21	全TELポートの転送セット
転送解除	#20	全TELポートの転送解除

「***」は全ポート設定です。

2-1. 転送をする/やめる

フリー転送/着信転送を使用するかどうかを指定します。
TELポートごとに電話番号を設定している場合は個別設定を、電話番号が1つの場合は
共通設定をご使用ください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下の
ボタンを順番に押して設定します。

転送解除[初期値]	2 → * → 0
転送セット	2 → * → 1

設定手順 共通設定

本機のTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下の
ボタンを順番に押して設定します。

全TELポート一括解除	# → 2 → 0
全TELポート一括セット	# → 2 → 1



ワンポイント

- フロントパネルのファンクションキーの使い方
フロントパネルのファンクションキーを1秒以上押しつづけると、全TELポートの転送の
セットと解除を切り替えることができます。
- 転送設定の状態
転送が可能な状態であると「転送」LEDと転送を設定しているTELポートのLEDが点灯します。

2-2. 転送先の電話番号を登録/変更/削除する

転送先の電話番号を登録します。変更時は、登録を再度行うと前回の電話番号を削除して新しい電話番号を登録します。転送先が登録されていないと、転送機能を使用できません。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

転送先電話番号	登録	2 → * → 2 → 電話番号 → #
	削除[初期値]	2 → * → 2 → #
		* 電話番号は、最大21桁



注意

- 転送先電話番号にサブアドレスや特殊番号、ポーズは登録できません。
- 全TELポートともに同一の電話番号での着信が可能な場合は、各ポートに同一の転送先電話番号を登録してください。最初に「***」を押せば、全TELポート一括で登録できます。
例: ***2*(電話番号)#

2-3. フリー転送でベルを鳴らしながら転送先を呼び出す (転送同時呼出)

電話がかかってきたときに、呼出ベルを鳴らしながら転送先を呼び出すことができます。
呼出ベルが鳴っているときに受話器を取ると、転送が中断され通話できます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

転送同時呼出ししない[初期値]	2 → * → # → 2 → 0
転送同時呼出する	2 → * → # → 2 → 1

使用例

転送同時呼出中に、転送先で受ける

- ① 電話がかかってくると、本機に接続されている電話機のベルが鳴ります。
- ② ベルが約1回鳴ってから転送先のベルが鳴ります。
- ③ 転送先で受話器を取ると、通話できます。

このとき、本機に接続されている電話機のベルが止まります。



ワンポイント

転送先が話中の時は？
着信したTELポートは、呼び出し続けます。

2-4. 着信転送のとき、転送のアナウンスを流す (転送アナウンス)

フレックスホンによる着信転送時に、電話をかけてきた側あるいは転送する先の相手に音声ガイダンスを流すことができます。

転送アナウンス

電話をかけてきた側に、現在転送中であることを知らせます。

転送元アナウンス

転送先の相手に、電話が転送されてくることを知らせます。



ご注意

フリー転送では、転送アナウンスを流すことはできません。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

転送アナウンスなし&転送元アナウンスなし[初期値]	2 → * → 6 → 1
転送アナウンスあり&転送元アナウンスなし	2 → * → 6 → 2
転送アナウンスなし&転送元アナウンスあり	2 → * → 6 → 3
転送アナウンスあり&転送元アナウンスあり	2 → * → 6 → 4

3 外出先からの転送の設定/変更を行うには (リモート設定)

本機は、ISDN回線に接続された機器 (ISDN公衆電話など) やサブアドレス機能付きの携帯電話・PHSから、フリー転送/着信転送のセットや解除、さらに、転送先の番号の変更を行うことができます。この機能をリモート設定機能と呼びます。

■ リモート設定を行うための基本手順

リモート設定を行うには、以下の手順で設定を行います。

- ① 暗証番号の登録
リモート設定による転送のセット、及び解除用の暗証番号を、あらかじめ登録しておきます。
- ② サブアドレス付きで電話をかける
外出先から電話番号と、続けて暗証番号をサブアドレスとして電話をかけます。
セットするためのサブアドレスで電話をかけた場合は転送のセットが、解除するためのサブアドレスで電話をかけた場合は解除が行われます。
- ③ 必要に応じて、外出先から転送先の番号を変更する。

3-1. リモート設定用暗証番号の登録

暗証番号には任意の4桁のサブアドレスを使用します。
暗証番号については次の2種類があります。

- ・転送をセットするためのセット用暗証番号
- ・転送を解除するための解除用暗証番号



注意

- TELポートごとに、それぞれ個別のセット用、解除用の暗証番号を登録することができます。
- TELポートに設定されているサブアドレスがある場合は、そのサブアドレスと同じ値は登録しないでください。該当するTELポートが電話を着信できなくなります。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

セット用暗証番号登録	2 → * → # → 0 → 暗証番号
セット用暗証番号削除 [初期値]	2 → * → # → 0 → #
解除用暗証番号登録	2 → * → # → 1 → 暗証番号
解除用暗証番号削除 [初期値]	2 → * → # → 1 → #

* 暗証番号は数字4桁で指定

3-2. 外出先から転送をセット/解除する

設定手順

次のように外部のサブアドレス対応電話機から本機へ電話をかけます。

転送セット	本機電話番号	→ *	→ セット用暗証番号
転送解除	本機電話番号	→ *	→ 解除用暗証番号

※ * はISDN公衆電話ではサブアドレスボタンになります。

操作例

外出先から転送をセットする

本機の電話番号が 03-1234-5678 で、セット用暗証番号が 1234 の場合、

- ① 外出先の電話機から、「0312345678 * 1234」を押します。
- ② セットが完了した場合は、「おかけになった電話番号は、お客様と通信できる機器が接続されていません」のようなアナウンスが流れます。
セットできなかった場合は、「ツーツーツー」という切断音(話中音)が流れます。
- ③ 受話器を戻します。

ご注意

- セット用暗証番号と解除用暗証番号は別の値をご使用ください。同じ暗証番号にした場合は、セット用が優先となりますので、リモート設定による解除はできなくなります。
- TELポートごとに暗証番号を登録できます。両TELポートの暗証番号が同じ場合は、両ポートとも同時にセットまたは解除が有効になります。
- リモート設定は、暗証番号が優先されますので、ダイヤルイン番号など登録していても、いずれの電話番号でもリモート設定可能です。
- 暗証番号があらかじめ登録されていない場合は、リモート設定による転送のセットと解除はできません。
- ISDN回線に接続された機器 (ISDN公衆電話など) やサブアドレス機能付きの携帯電話・PHSから電話をかける必要があります。

3-3. 外出先から転送先を変更する

外出先から転送先の電話番号を変更できます。

外出先から変更した場合、現在の転送先として指定されている転送先電話番号が変更されます。

設定手順

次のように外部のサブアドレス対応電話機から本機へ電話をかけます。

転送先変更後、転送をセットする

本機電話番号 → * → セット用暗証番号 → 新転送先電話番号

転送先変更後、転送を解除する

本機電話番号 → * → 解除用暗証番号 → 新転送先電話番号

操作例

外出先から転送先を変更してセットする

本機の電話番号が 03-1234-5678 で、セット用暗証番号が 1234、新しい転送先の電話番号が 06-1111-2222 の場合、

- ① 外出先の電話機から、「0312345678 * 12340611112222」を押します。
- ② セットが完了した場合は、「おかけになった電話番号は、お客様と通信できる機器が接続されていません」のようなアナウンスが流れます。
セットできなかった場合は、「ツーツーツー」という切断音(話中音)が流れます。
- ③ 受話器を戻します。



注意

- 両TELポートの暗証番号が同じ場合は、両方のTELポートの転送先が変更されることになります。
- この設定で変更できる転送先番号の最大桁数は15桁です。



ワンポイント

転送先電話番号の設定は短縮/共通短縮ダイヤルでも指定できます。例えば、新しい転送先を短縮の10番に登録されている電話番号にしたいときは、転送先電話番号の代わりに「10」と打っても転送先の変更ができます。

外出先から使用する通信機器(PHSなど)にサブアドレスの桁数制限がある場合などに便利な機能です。

4 通話中の電話を転送するには

4-1. 外線通話を別の TEL ポートに転送する(内線転送)

外線からの電話を別のTELポートに接続している電話に転送することができます。

操作手順

内線通話をして転送する

[フッキング] → 2 → TELポート番号 → 内線通話 → [オンフック]の順に操作
内線通話しないで転送する

[フッキング] → 2 → TELポート番号 → [オンフック] の順に操作

Check!

フッキングの初期値は「無効」です。フッキングを利用するには、Ⅶ章1-1.「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。

操作例

TEL2ポートへ内線通話をして転送する

- ① 外線と通話中に「フッキング」をします。
- ② 「ツツツツツ…」※1 という完了音が鳴っている間に、「22」を押します。
- ③ 外線の相手は保留※2 になり、TEL2ポートが呼び出されます。
- ④ 内線通話のあと、受話器を戻します(オンフック)。
- ⑤ TEL2ポートと外線につながります。



ワンポイント

- 内線相手が出ないときには？
「フッキング」すると保留した外線相手とつながります。
- 内線相手が先に受話器を戻すと？
保留した外線相手とつながります。



ご注意

- フレックスホンによる、保留相手がいる場合、内線転送できません。
- 内線転送先が、オフフックされていると外線通話の状態に戻ります。

※1 完了音は3秒間鳴ります。3秒経過した場合、通信中発信の電話番号入力待ち状態になります。
また、保留中の電話がある場合には、切り替わります。

※2 保留した外線相手へ、保留音が流れます。

4-2. 外線通話を別の外線に転送する(通信中転送)

通話中の電話を、別の相手に転送することができます。

本機能には、契約が必要な「通信中転送」と契約が不要な「疑似通信中転送」の2種類があります。

設定や操作は同じですが、疑似通信中転送にはいくつかの制限があります。

契約の有無は、本機の起動時に判別します。

操作手順

[フッキング]→ 0 の順に押す

操作例

通話中の電話を転送する

- ① 「フッキング」します。
- ② 「ツツツツ…」という音が鳴っている間に、「0」を押します。
- ③ 「ツー、ツー、ツー」という切断音が聞こえ、通話中の電話を別の相手に転送します。
- ④ 受話器を戻します。

使用例

かかってきた電話を別の外線相手へ転送する

- ① かかってきた電話を受けます
- ② 「フッキング」します。
- ③ 「ツツツツ…」という音が鳴っている間に、「1」を押します。
- ④ 「ツー、ツー、ツー」という音を確認します。
- ⑤ 転送する相手の「電話番号#」を押します。
- ⑥ 相手と通話後、「フッキング」して「0」を押します。
- ⑦ 保留中の相手と外線相手がつながります。

Check!

フッキングの初期値は「無効」です。フッキングを利用するには、Ⅶ章1-1. 「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。

ご注意

- 疑似通信中転送は、他のポートが使用中の場合転送できません。
- 疑似通信中転送の場合、転送した電話が通話中の間、電話の発着信ができません。
- 使用している電話機により[フッキング]→0が行えない場合があります。このような場合はⅦ章1-3. 「フッキング代用」(P78)を使用してください。
- 通信中転送の場合、転送先の回線により転送できない場合があります。転送が可能な回線であるかはNTTにお問い合わせください。

VI

電話の便利な機能

1 別々の電話の二人と話す(三者通話)

三者通話は、通話中に別の相手(外線)に電話をかけて、他の二人と話ができます。キャッチホンのように相手を切り替える方法と、三人同時に通話する方法の2種類があります。契約が必要なフレックスホンと不要な疑似フレックスホンがあります。設定や操作は同じです。契約の有無は本機の起動時に判別します。

1-1. 相手を切り替えて話す(切替モード)

操作手順

保留切替	[フッキング]→ 1 の順に押す
通話終了	[オンフック]する

Check!

フッキングの初期値は“無効”です。フッキングを利用するには、Ⅶ章1-1.「フッキングの有効/無効の設定」(P76)を参照してください。

操作例

もう一度はじめの相手と話すには(切替)

- ① 「フッキング」をして、「1」を押します。※
- ② あとからかけた相手が保留になり、はじめの相手と話せるようになります。
※フッキングと「1」で、交互に相手を切り替えることができます。
フッキング後、「1」を押し忘れても約3秒後に相手が切り替わります。

電話を切るには

- ① 相手と話し終わったら受話器を戻します(オンフック)。
- ② 保留中の相手がいるときは、呼出ベルが鳴ります(呼び戻し)。

相手が先に電話を切ったら

- ① 受話器から聞こえる切断音を確認して「フッキング」します。
- ② 保留中の相手がいるときは、その相手と話ができます。
保留中の相手がいないときは、受話器から切断音が聞こえます。



ワンポイント

- フッキングではなくオンフックをした場合は?
保留中の相手がいると呼出ベルが鳴りません(呼び戻し)。

関連する機能

Ⅲ章1-5. 「通話を保留にして別の相手に電話をかける(通信中発信)」(P45)参照

1-2. 三人同時に話す(ミキシングモード)

キャッチホンまたは通信中発信で、通話中の相手と保留中の相手がいるときに、保留中の相手を含めて三人で話ができます。

操作手順

ミキシング開始	[フッキング]→ 3 の順に押す
ミキシング終了	[フッキング]→ 1 の順に押す

操作例

ミキシングモードにする

- ① 二人の相手を切り替えて通話しているとき、「フッキング」をして「3」を押します。フッキング後、「ツツツツツ…」という完了音が鳴っている間に「3」を押してください。
- ② 3人で話せるようになります。

ミキシングモードを終了する

- ① 「フッキング」をして、「1」を押します。
- ② ミキシングモードにする前の状態に戻ります。



ご注意

- 疑似三者通話は、他のポートが使用中の場合使用できません。
- 疑似三者通話では、ミキシングモードは使用できません。

2 特定の相手によってベルの鳴らし方を変えるには

着信時に特定の相手からであることを普通より短い呼出ベルや割込音でお知らせします。特定の相手は、本機の機能により異なります。



ご注意

- TELポートに接続した機器によっては、呼出ベルが変わらないことがあります。
- TELポートに接続した機器によっては、呼出ベルが変わると誤動作を起こすことがあります。誤動作を起こすときは、普通の呼出ベルに戻してください。

2-1. オンネット識別音

INSメンバーズネットを契約しているISDN回線で、同じINSメンバーズネット回線内からの着信時に呼出ベルや割込音を変更することができます。

設定手順 共通設定

本機のTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

普通のベル[初期値]	1 → * → 9 → 2 → 0
短いベル	1 → * → 9 → 2 → 1

2-2. なりわけ

なりわけには、「INSなりわけサービス」を利用する「INSなりわけ」と、発信者番号通知を利用する「疑似なりわけ」の2種類があります。

「INSなりわけ」はISDN交換機に相手の電話番号を登録します。

電話番号の登録については、INSなりわけの説明書をご参照ください。

「疑似なりわけ」は、本機の短縮/共通短縮ダイヤルに相手の電話番号を登録します。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

使わない[初期値]	1 → * → 4 → 0
疑似なりわけを使う	1 → * → 4 → 1
INSなりわけを使う	1 → * → 4 → 2
両方を使う	1 → * → 4 → 3



注意

- 「INSなりわけ」で電話番号を登録するとき、契約した電話番号を通知する必要があります(P47参照)。
- 「疑似なりわけ」は、本機に発信者番号が通知される必要があります。
- 「疑似なりわけ」は、相手がアナログ電話回線等の場合、「INSナンバー・ディスプレイ」の契約が必要です。

VII

電話の詳細な設定

1 フックングの設定

1-1. フックングの有効/無効の設定

フックングの有効/無効を指定できます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

フックング無効[初期値]	9 → * → 2 → 0
フックング有効	9 → * → 2 → 1
通信中発信用フックングのみ禁止	9 → * → 2 → 2



注意

フックングを有効にすると、オフフック認識時間が1秒未満の場合、自動的に1秒に設定を変更します。また再びフックングを無効にしたとき、オンフック認識時間の設定を初期値に戻します。

1-2. フックングの微調整

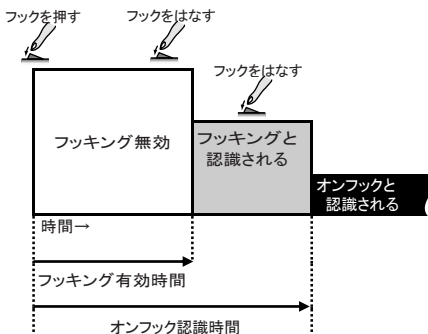
フックングの動作を微調整することができます。



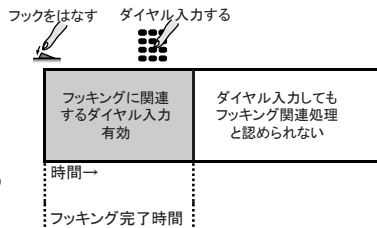
注意

設定を変更すると、接続した電話機が誤動作する可能性があります。可能な限り設定を変更しないでください。

●フックング有効時間とオンフック認識時間



●フックング完了時間



(1) フッキング有効時間

フッキングと認識する時間の最小値を調整します。

設定した時間よりも長ければフッキングとみなし、短い場合は無視します。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

フッキング有効時間 n 秒[初期値 n=1] 9 → * → 2 → 3 → n

* n は0～9の数字

0: 約0.03秒

1: 約0.1秒

2: 約0.2秒

3: 約0.3秒

4: 約0.4秒

5: 約0.5秒

6: 約0.6秒

7: 約0.7秒

8: 約0.8秒

9: 約0.9秒

(2) オンフック認識時間

オンフックと認識する時間の最小値を調整します。

設定した時間より長ければオンフック(通話が切断された)とみなし、短い場合はフッキングとみなします。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

オンフック認識時間 n 秒[初期値 n=3] 9 → * → 2 → 4 → n

* n は0～9の数字

0: 約0.2秒

1: 約0.3秒

3: 約0.4秒

3: 約0.5秒

4: 約0.6秒

5: 約0.7秒

6: 約0.8秒

7: 約0.9秒

8: 約1秒

9: 約2秒

(3) フッキング完了時間

通話中にフッキングを行ったときの、フッキング操作が完了するまでの時間を調整します。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

フッキング完了時間 n 秒[初期値 n=3] 9 → * → 2 → 5 → n

* n は0～9の数字

0: 約3.5秒

1: 約1秒

2: 約2秒

3: 約3秒

4: 約4秒

5: 約5秒

6: 約6秒

7: 約7秒

8: 約8秒

9: 約9秒

1-3. フッキングを#ボタンで代用する(フッキング代用)

通話中に「#」を押すことで、フッキングをしたとみなすように設定できます。

「#」に続けて数字入力(ダイヤル入力)が必要です。数字を入力するまでに3秒経過すると無効になります。3秒過ぎてしまったときは、最初からやり直してください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

代用禁止[初期値] 9 → * → * → 0
 代用許可 9 → * → * → 1

Check!

操作時、#のあとに続けて数字を入れてください。

目的	フッキング操作	フッキング代用操作
通話・保留切替	[フッキング]1	#1
通信中転送	[フッキング]0	#0
内線転送		
内線通話後転送	[フッキング]2(TELポート番号)→ 通話 →[オンフック]	#2(TELポート番号)→ 通話 →[オンフック]
即時内線転送	[フッキング]2(TELポート番号)→[オンフック]	#2(TELポート番号)→[オンフック]
三者通話(ミキシング)		
ミキシング開始	[フッキング]3	#3
ミキシング終了	[フッキング]1	#1
割込着信通話	[フッキング]	#1



ご注意

- スティミュラス手順中(INSPボイスワープなど)、特殊ダイヤルには使用できません。
- フッキング代用を利用すると操作完了音がしません。
- 通話中にトーン信号(#など)を送信する場合には、フッキング代用禁止にしてください。



ワンポイント

- 一時的にフッキング代用禁止にするには、電話番号の前に「185」を付けてダイヤルします。この一時停止は、基本的にその通話の間のみ有効ですが、内線転送を行うと無効になります。
- フッキングが無効でも、フッキング代用機能は使用できます。

2 呼出音周波数の設定

TELポートへの着信時に本機が、アナログ機器を呼び出す時の周波数を変更する設定です。本機に接続したアナログ機器が着信できるが、ベルが鳴動しないときに設定変更を試してください。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

呼出音周波数	約16.7ヘルツ[初期値]	9 → * → 6 → 0
	約20.0ヘルツ	9 → * → 6 → 1
	約25.0ヘルツ	9 → * → 6 → 2
	約33.3ヘルツ	9 → * → 6 → 3

ご注意

- 本設定を行ったあとに受話器を置くと試験呼びだしを行います。受話器を取って再度、受話器を戻してください。
- ベルが鳴動するときに本設定を変更しないでください。ベルが鳴動しなくなることがあります。本設定は、安易に変更を行えないようにパソコン(設定ユーティリティ)では設定できないようになっております。

3 切断信号(CPC)の設定

着信による通話時に相手(発信者)が先に通話を切ったとき、切断を通知する信号を出すか出さないかを設定できます。

切断信号は、自動応答装置(留守番電話など)が相手切断を判断するための信号です。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

切断信号なし	# → 0 → * → 0 → * → 0 → 0
切断信号あり[初期値]	# → 0 → * → 0 → * → 0 → 1



ご注意

内線通話終了時、切断信号(CPC)は出ません。

4 機器種別の設定

機器種別としてHLC(高位レイヤ整合性)を設定することができます。

発信時にはHLCをつけて発信し、着信時にはHLCが一致する相手とのみ通信を行います。

設定により着信時にHLCを区別しないこともできます。

「任意」「電話」「FAX」の3種類の機器種別を設定することができます。

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

機器種別「任意」[初期値]	7 → * → 1
機器種別「電話」	7 → * → 2
機器種別「FAX」	7 → * → 3

《HLCの種類について》

- 任意 電話、FAX、モデムどれでも着信させることができます。
また、発信時に機器種別指定なし(HLCを通知しません)で発信します。
- 電話 機器種別指定なしの着信と、HLCが「電話」の着信を受け付けます。
また、発信時にHLCに「電話」を指定して発信します。
- FAX 機器種別指定なしの着信と、HLCが「FAX」の着信を受け付けます。
また、発信時にHLCに「FAX」を指定して発信します。



ご注意

- 機器種別を「任意」以外に設定すると、相手によっては発着信できなくなることがあります。
- 機器種別の情報は、アナログ電話回線からは通知されません。

4-1. 着信時に機器種別をチェックする/しない

設定手順 個別設定

設定を入れるTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

機器種別	チェックしない[初期値]	7 → * → 0 → 0
機器種別	チェックする	7 → * → 0 → 1

4-2. 発信時に機器種別を一時的に変更する

電話をかけるときに、その通話だけ機器種別を変更することができます。

操作手順

機器種別「任意」に変更して電話	1 → 8 → 1 →	電話番号	→ #	の順に押す
機器種別「電話」に変更して電話	1 → 8 → 2 →	電話番号	→ #	の順に押す
機器種別「FAX」に変更して電話	1 → 8 → 3 →	電話番号	→ #	の順に押す



ご注意

機器種別「FAX」(183)として電話をかけると、割込着信も禁止されます。

5 メンテナンス用暗証番号の設定

外部メンテナンス用の暗証番号を設定します。

設定手順 共通設定

本機のTELポートに接続している電話機から電話番号と同じように以下のボタンを順番に押して設定します。

メンテナンス用暗証番号の登録
削除 [初期値]

1 → * → 7 → 4 → 暗証番号

1 → * → 7 → 4 → #

* 暗証番号は数字4桁で指定

VIII

データ通信

1 データ通信の概略

ご利用できる通信モード、及びその概要は次のとおりです。

通信モードは、接続する相手先と合わす必要がありますので、接続先がどの通信モードに対応しているかを確認してご利用ください。

電話等と同じ、通信チャネル(Bch/Bチャンネル)を利用するモードです。通信料金は電話と同一で、通信時間と距離によって算出されます(「離島に関する通信料金の特例」は、適用されません)。

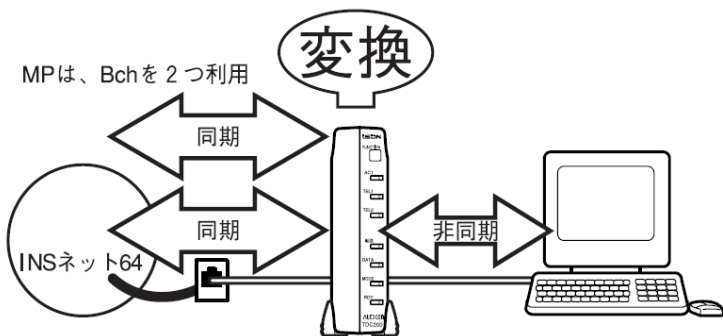
■ 非同期/同期PPP(Point to Point Protocol)変換

非同期/同期PPP変換は、インターネットに接続するための通信モードです。PPP手順に対応した通信ソフトが必要です。

■ MP(Multilink Protocol)

MPは、Bchを2つ同時に利用する(バルク通信)非同期/同期PPP変換です。Bchを1つしか利用しない非同期/同期PPP変換は通信速度64Kbpsですが、MPは倍の128Kbpsを提供します。

通信中にはBchがすべてふさがってしまう(「INSネット64」のBchは2つ)ために電話などは利用できなくなります。この弊害を軽減するためにBODという機能があります。



☞ ご注意

- 通信料金は、非同期/同期PPP変換通信の2倍かかります。
- 相手もMP通信に対応している必要があります。対応していない場合、接続できなかつたり、高額な金額を請求されることがあります。
- MPでの128Kbps通信を生かすには、端末(DTE)速度を230.4Kbpsにする必要がありますが、通常のパソコンのRS-232Cポートは対応していません。本機の端末速度を230.4Kbpsにてご利用の際には、市販の230.4Kbps対応RS-232Cポートをご利用ください。

■ BOD(Bandwith on Demand)機能

MP通信でBchを2つ同時に使用しているとき、データ通信量やTELポートに接続した電話機で発着信することにより、Bchを自動的に追加/削除する機能です。

リソースBOD : MP通信でBchを2つ同時に使用していてもTELポートに接続した電話機で発着信することができます。

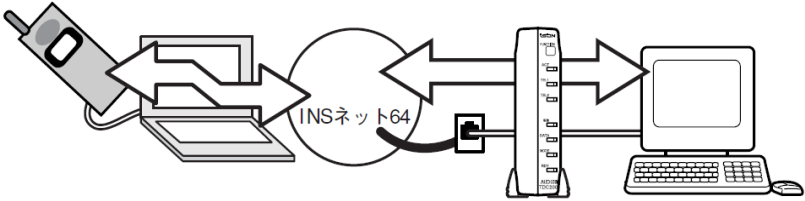
スループットBOD : MP通信で、データ量が少ないときにはBch1つで通信を行い、データ量が多いときはBch2つで通信を行います。



ご注意

BOD機能を使うためにはNTTの「通信中着信通知サービス」の契約が必要です。

■ PIAFS(PHS Internet Access Forum Standard)



PHSとモバイル通信を行うためのモードです。32Kbpsに対応しています。
無手順の通信ソフトで利用できます。

2 インターネットに接続する

2-1. 始める前に

DATAポートあるいはUSBポートを使用してインターネットに接続する際に、お客様に行って頂く必要のある事柄を以下に説明します。



- Windows用モデム定義ファイルは、下記のOSに対応しています。
Windows 2000/Windows XP/Windows Vista/Windows 7
インストール時に警告が出ますが、ご使用上、支障ありません。
- モデム定義ファイルは発信のみに対応しています。
- インターネットサービスプロバイダへのダイヤルアップ接続についてはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。
- 表記対応OS以外についてはお客さま自身の責任においてご使用ください。
- インターネットサービスプロバイダへのダイヤルアップ接続以外のデータ通信やリモートアクセスサービスを使用したデータ通信などについては、お客様自身の責任においてご使用ください。
- USBケーブルが本機に接続されると、RS-232Cポートでデータ通信中であっても回線をいったん切断します。また、USBケーブルが外された場合は、データ通信中でも回線を切断しRS-232Cに切り替えます。DATAポートとUSBポートを切り替える場合、データ通信のときはいったんデータ通信を終了させてから行ってください。
- USBポートでデータ通信中に他のUSB機器の抜き差しや電源のオン/オフは行わないでください。データ通信が切断されます。

● インターネットサービスプロバイダへの加入手続き

インターネットへの接続を行う場合は、サービスを提供するインターネットサービスプロバイダへの加入手続きを行ってください。また、接続に必要なソフトのインストールが終了したら、プロバイダ提供の資料もしくは指示に従って、プロバイダとの接続の準備を行ってください。

● 本機とパソコン、及びISDN回線との接続確認

通信を始める前に、I章5「接続のしかた」(P9)を参照して、本機にパソコンとISDN回線を接続してください。

ISDN回線との接続確認

I章5-6.「回線との接続を確認する」(P16)を参照して、ISDN回線との接続を確認してください。

パソコンとの接続確認

I章5-4.「パソコンを接続する」(P11)を参照してパソコンとの接続を確認してください。また、通信ポート COM (x) をパソコンの取扱説明書で確認してください。

3 インターネット以外の接続について

インターネット以外でデータ通信を行う場合は、以下のことを参考にしてください。



注意

- インターネットサービスプロバイダへのダイヤルアップ接続以外のデータ通信や、リモートアクセスサービスを使用したデータ通信などについては、お客様自身の責任においてご使用ください。
- 非同期/同期PPP変換、MPIによる通信を行う場合、通信ソフトもPPP手順に対応している必要があります。

3-1. データ通信に必要なこと

(1) 通信相手と同じ通信方法にする。

通信方法には、大きく分けてデジタル通信とアナログ通信の2種類があります。本機のDATAポートやUSBポートを使用するとデジタル通信モードになります。相手がモデムの場合、本機のDATAポートやUSBポートによる通信は行えません。

(2) 相手と同じ通信手順にする。

デジタル通信モードでも通信手順が複数あります。通信手順を合わせないと接続を拒否されたり接続してもデータの送受信ができません。通信手順は、必ず合わせてください。

(3) 通信ソフト(プログラム)の設定

通信ソフトに必要な設定は、使用するパソコンの通信ポート設定(ポート指定、本機との通信速度など)と通信手順の設定です。通信ソフトにより通信手順の設定は異なりますが、大きく分けると2通りの方法に分かれます。

- ・モデム定義を使用する
通信手順ごとに用意されていますので、用途にあったモデム定義ファイルを選択してください。
- ・初期化コマンドを追加で入れる
通信設定については、通信ソフトの会社などにお尋ねください。
必要な手順が判れば添付CD-ROMのATコマンドやレジスタの設定を参照して必要な設定を追加してください。

●初期化コマンド例

通信速度・モード	設定値
非同期/同期PPP変換	ATE0Q0V1X1¥Q3G1=2
MP	ATE0Q0V1X1¥Q3G1=0
PIAFS 32K	ATE0Q0V1X1¥Q3G1=5

0 : 数字の「0」

Q : 英大文字の「Q」

3-2. データ通信で着信する

(1) 電話番号による着信の選択

- ・ デジタル通信モードで着信すると、本機のDATAポートかUSBポートに着信を通知します。TELポートと分けるために別途電話番号を契約する必要はありません。
- ・ 番号による着信の区別を行う場合、本機の初期値は、契約者回線番号のみ着信です。追加番号の着信を許可するには、本機の“C61”レジスタに追加番号を設定してください。なお、i・ナンバーの場合、TELポートの設定(3 * 8や3 * * : P56)も必要です。設定方法は、Windowsのモデム定義ファイルを使用される場合は、モデム定義ファイルの「追加設定」に“C61=追加番号”を入れてください。上記以外は、あらかじめ設定をターミナルソフトで設定、保存してください。

(2) 通信手順による着信の選択

- ・ “G11”レジスタにより、着信を許可する通信手順を選択することができます。全ての着信を拒否することもできます。

3-3. FAX ソフトを使う

通常のFAXソフトは、TA(ターミナルアダプタ)に対応しておりません。

FAXソフトで、パソコンからFAXを送る場合は、別途FAXモデムを用意して、「パソコン」→「FAXモデム」→「TELポート」経由で接続/使用してください。FAXソフトの設定で選択する機器は、「FAXモデム」となります。

3-4. データ通信での発信者番号通知について

DATA(USB)ポートを使用して、デジタル通信モードで発信するときに、相手へ追加番号を通知したい場合は、本機の“C61”レジスタに追加番号を設定してください。設定方法は、Windows用モデム定義ファイルの「追加設定」に“C61=追加番号”を入れてください。上記以外の設定は、あらかじめターミナルソフトで設定し、保存してください。

IX

付録

1 本機のバージョンアップ

本機には、ファームのバージョンアップ機能があります。

バージョンアップを行うことにより、本機の機能を改善することができます。

バージョンアップには、専用ユーティリティとファームデータが必要です。

バージョンアップを行う場合には、以下の説明を参考にしてください。

専用ユーティリティは添付CD-ROMにて、最新ファームデータは弊社ホームページにて提供されます。



- 本機のファームウェアのバージョンアップは必ず行うものではありません。弊社ホームページ (www.alexon.co.jp) の本機用バージョンアップされたファームウェアの「更新履歴」をご覧ください。
- バージョンアップ作業中は、電話が一時的に使用できなくなります。
- 本ユーティリティはWindows 2000/XP/Vista/7に対応しています。
- 本ユーティリティをUSBでご利用になる場合は、予めUSBドライバをインストールする必要があります (USBのインストール方法は、添付CD-ROMをご参照ください)。

1-1. ユーティリティのインストール

添付のCD-ROMには、バージョンアップユーティリティソフトが収録されています。

下記のインストール方法に従って、お手持ちのパソコンにユーティリティをインストールしてください。

- ① 添付のCD-ROMをご利用のパソコンにセットします。
- ② CD-ROMのメニュー画面が表示されます。
本機の機種名をクリックします。
- ③ 本機のメニュー画面で、「バージョンアップユーティリティのインストール」をクリックします。
インストールを開始します。以後画面の指示に従って、インストール先を指定してください。

1-2. ファームデータの用意

ファームデータとは、本機を動作させる内部プログラムのことです。
最新のファームデータは、ALEXONホームページ(www.alexon.co.jp)より、ダウンロードしてください。
ダウンロードしたファイルをダブルクリックすることにより、ファームデータが作成されます。
作成されたファームデータは、「TDC200.xxx」という形式になります。
"xxx"がバージョン番号です。



注意

- ファームデータは、本機用をお選びください。
- ダウンロードしたファイルは、そのままではご使用できません。
- 間違ったファームデータにてバージョンアップを行うと正常に動作しません。

1-3. バージョンアップを行う



ワンポイント

- バージョンアップを行うと設定が初期化されることがあります。
念のためバージョンアップ前に設定ユーティリティによりTELポートの設定をパソコンに保存しておくことをお奨めします。
- バージョンアップを行うと下記の設定が変更されますが、インターネットを使用するには影響ありません。
コマンドエコー、リザルトコードの有無、リザルトコードの表示形式



注意

パソコンと本機のDATAポートもしくはUSBポートが接続され、なおかつ使用可能な状態であることが必要です。

- (1) バージョンアップユーティリティを起動する
タスクバーより「ISDN TA バージョンアップユーティリティ」を起動します。
- (2) ファームデータを選択する
バージョンアップユーティリティの「参照」ボタンをクリックして用意したファームデータを選択します。
- (3) 接続ポートを選択する
接続ポートの右側にある▼をクリックして、設定ユーティリティが動作する通信ポートを選択します。
- (4) ファームデータを更新する
バージョンアップユーティリティの「実行」ボタンをクリックします。
バージョンアップの途中で、本機は自動で2回再起動します。
2回目の再起動後、終了画面が表示されます。
「OK」ボタンをクリックするとバージョンアップ作業が完了します。



- ファームデータは、必ず、本機用を選択してください。
間違ったファームデータにてバージョンアップを行うと、正常に動作しません。
- バージョンアップ中は、本機とパソコンの電源を切らないでください。

● バージョンアップを中断したり失敗した場合

バージョンアップを中断したり失敗した場合は、再度バージョンアップ作業を行って作業を完了してください。

作業が完了していないと本機のLED(“転送”、“DATA”、“MODE”、“RDY”)が1秒点灯1秒消灯の点滅を繰り返します。

バージョンアップ作業を完了させない場合、次の制限があります。

- ・ 電話の機能は、工場出荷値状態でのみ動作します。
(転送、ナンバー・ディスプレイなど利用できません)
- ・ インターネット関連は、64K(PPP)通信のみとなります。
(128KのMP通信は、利用できません)

2 困ったとき

主なトラブルの現象ごとに、解決策を説明しています。

なお、設定方法に関しては、接続電話機による方法を記載しております。

また、記載されていないトラブルが発生した場合や記載している解決策で解決されない場合には、お買い上げの販売会社または弊社サポートセンターにご相談ください。

[電話機からの設定関係]

こんなとき	処置
受話器を取っても無音	本機の電源が入っていますか？ 電話機とTELポートの配線があっていますか？ 受話器を取った時、本機のTEL1/TEL2のLEDが点滅していなければ、正しく接続されていません。
設定しても「ツー」という発音音のまま	電話機のダイヤル方式はPB方式ですか？ PB方式の電話機でしか設定できません。
設定したあとに「ツー、ツー」という話中音になる	設定手順が間違っていないですか？ 外線発信できる状態ですか？ 電話機によっては、外線状態で本機に接続していないことがあります。

[電話の発信関係]

こんなとき	処置
受話器を取っても無音	本機の電源が入っていますか？ 電話機とTELポートの配線があっていますか？ 受話器を取った時、本機のTEL1/TEL2のLEDが点滅していなければ、正しく接続されていません。
電話をかけても「ツー」という発音音のまま	電話機のダイヤル方式はPB方式ですか？ 電話機と本機のダイヤル方式を合わせてください。
電話をかけると「ツー、ツー」という話中音になる	ISDN回線が正しく配線されているか確認してください。 本機のACT LEDが点滅しているとISDN回線が正しく接続されていません。 特定の相手だけの場合(他の相手には、電話がかけられる) 本機の“機器種別”、“発信制御”の設定を確認してください。
電話をかけると“電話局からのアナウンス”が聞こえる	特定の相手だけの場合(他の相手には、電話がかけられる) 本機の“機器種別”の設定を確認してください。

こんなとき	処置
電話番号が相手に通知されない	本機の発信者番号通知設定を“通知する”に設定してください。
特定の相手にだけFAXを送れない	特定の相手に電話をかけられるか確かめてください。 電話がかかると、本機の音量を調節してFAXしてみてください。

[電話の着信関係]

こんなとき	処置
電話を受けることができない(電話をかけられると話中である)	本機の電源が入っていますか？ ISDN回線が正しく配線されているか確認してください。 本機のACT LEDが点滅しているとISDN回線が正しく接続されていません。 着信制御で着信禁止にしていますか？
電話がかかって来ても呼出ベルが鳴らない	本機に接続されている、電話機の呼出音量を確認してください。 本機のTELポートで電話機を接続していないTELポートのLEDが点滅していませんか？ 電話機を接続していないTELポートは、“着信禁止”に設定してください。 “転送”のLEDが点灯していませんか？ LEDが点灯している場合は、転送が設定されています。 転送を解除してください。
契約者回線番号に着信せず話中になる(追加番号は着信する)	「5 * 契約者回線番号#」の設定を行って見てください。 着信した場合、グローバル着信がダイヤルインの契約になっています。
追加番号に着信せず契約者回線番号に着信する	i-ナンバーの設定を行っていますか？ 設定を行っていない場合、全て契約者番号として着信します。必ず登録してください。
呼出ベルが鳴っているときに、受話器をとるとすぐに切れてしまう	ナンバー・ディスプレイの設定をしていませんか？ ナンバー・ディスプレイに対応していない電話機やナンバー・ディスプレイを受け設定になっていない電話機を接続して、本機にナンバー・ディスプレイの設定をすると着信できなくなります。 キャッチホン・ディスプレイの設定も同じです。

[電話の転送関係]

こんなとき	処置
転送されずTELポートに着信する	<p>“転送”のLEDが点灯していますか？ 転送には、“転送先の登録”，“転送のON/OFF”の設定が必要です。 着信するTELポートに転送設定を行いましたか？ 同時に着信するTELポートすべてに転送設定を行う必要があります。</p>
転送の設定を行っているのに、転送されないことがある	<p>転送の方法は、フリー転送ですか？ フリー転送はISDNの2チャンネルを使用します。 1チャンネルでも使用していると、転送できません。 1チャンネル使用中でも転送を行いたい場合、NTTの付加サービス(有料)をご利用ください。</p>
通信中転送ができない	<p>通話相手が保留になりますか？ 通話相手が保留にならず切れてしまったりする場合、フッキングの設定が必要です。 フレックスホンを契約していますか？ フレックスホンの場合、転送先がNTT以外の時、発信や通信中転送ができないことがあります。 NTTに通信中転送可能な相手かをご確認ください。</p>

[インターネット関係]

こんなとき	処置
<p>インターネットへ接続 操作をしたときに 「モデムから応答がない」 状態になる</p>	<p>パソコンの設定で、接続する方法を本機にしていますか？ 接続操作時、本機のRDY LEDが点灯しますか？ 点灯していなければ 1. RS-232C(ストレート)ケーブルで接続してください。 2. パソコンの通信ポートが使用できるのか確認してください。内蔵機器などで使えない場合があります。</p>
<p>インターネットへ接続 操作をしたときに 「相手と接続ができない」 状態になる</p>	<p>ISDN回線が正しく配線されているか確認してください。 本機のACT LEDが点滅しているとISDN回線が正しく 接続されていません。 接続操作で、本機のMODE LEDが点灯しますか？ 点灯していないと相手の電話番号やパソコンの接続設定 を見直してください。点灯していると通信モードの指定や ネットワーク設定を見直してください。</p>
<p>インターネットに接続に 時間がかかる</p>	<p>パソコンのネットワーク設定をプロバイダの推奨設定に 合わせていますか？</p>
<p>インターネットに接続 できるがホームページが 読めない</p>	<p>パソコンのネットワーク設定をプロバイダの推奨設定に 合わせていますか？</p>
<p>MP通信中電話が着信 しない</p>	<p>通信中着信通知サービスを契約していますか？ 通信中着信通知サービスを契約してください。</p>
<p>インターネット中に電話が 着信しない</p>	<p>本機のMODE LEDが点滅していますか？ 点滅していればMP通信ですので、通信中着信通知 サービスを契約するか、通信モードを64K PPPIに変更して ください。</p>

3 通話操作一覧

表中の[フッキング]は、キャッチ(ホン)ボタンでも代用可能です。

「*」、「#」など特殊記号が必要な操作はDP(ダイヤル)方式の電話機では使用できません。

㊦ マークが入っている操作のフッキングは、フッキング代用機能を許可にするとフッキングの代わりに「#」で同様のことができます。

目的	操作(PB)	頁
電話をかける	普通にかける (電話番号)# ^{※1}	42
	サブアドレスを付けてかける (電話番号)*(サブアドレス)# ^{※1}	48
	短縮ダイヤルからかける *(短縮番号)	42
キャッチホン(割込着信)を禁止して電話をかける ^{※2}	—プリフィックス発信— 180(電話番号)# ^{※1}	54
機器種別を変更して電話をかける ^{※2}	—プリフィックス発信—	80
	機器種別「任意」 181(電話番号)# ^{※1}	
	機器種別「電話」 182(電話番号)# ^{※1}	
	機器種別「FAX」 183(電話番号)# ^{※1}	
発信者番号通知を変更して電話をかける ^{※2}	—プリフィックス発信—	46
	電話番号を知らせない 184(電話番号)# ^{※1}	
	電話番号を知らせる 186(電話番号)# ^{※1}	
フッキング代用を一時停止にして電話をかける ^{※2}	—プリフィックス発信— 185(電話番号)# ^{※1}	78
他のTELポートを呼び出す	—内線呼出—	44
	TEL1ポート呼出 01# ^{※1}	
	TEL2ポート呼出 02# ^{※1}	
通話中にかかってきた別の電話を受ける	—キャッチホン— [フッキング] ㊦ (#1)	53
通話を保留にして他の電話をかける	—通信中発信— [フッキング]1 ^{※3} (電話番号)# ^{※1} ㊦	45
保留中の電話と切り替える	—通話・保留切替— [フッキング]1 ^{※3} ㊦	72
保留中の電話と通話中の電話をつなげる または、三者通話中に自分が抜ける	—通信中転送— [フッキング]0 ^{※3} ㊦	70
他のTELポートを呼び出し、通話中の電話をまわす ^{※4}	—内線転送—	69
	呼出TELポートと話してまわす [フッキング]2 ^{※3} (呼出ポート番号) ^{※5} →通話→[オンフック] ㊦	
	呼出TELポートと話さずにまわす [フッキング]2 ^{※3} (呼出ポート番号) ^{※5} →[オンフック] ㊦	
	TELポート呼出中に中止 TELポート呼出中に[フッキング] ㊦ (#1)	
保留中と通話中の相手と同時に話す	—三者通話(ミキシング)—	73
	ミキシング開始 [フッキング]3 ^{※3} ㊦	
	ミキシング終了 [フッキング]1 ㊦	
特殊ダイヤル	[フッキング](特殊ダイヤル)[フッキングまたはダイヤル完了タイマー]	43
ダイヤルキャンセル ^{※6}	[フッキング]	

※1 #を押さずにいるとダイヤル完了タイマー(初期値4秒)後に発信します。

※2 内線では無効です。

※3 フッキング完了時間(初期値約3秒)以内にダイヤルしないと自動的に1がダイヤルされ、通話中発信や通信・保留の切替になります。

※4 フレックスホンによる保留がある場合には無効です。

※5 内線転送の場合、直前のダイヤルからフッキング完了時間(初期値約3秒)以内に次のダイヤルをしないと、自動的に1がダイヤルされ、それぞれTEL1ポート・保留番号1になります。

※6 特殊ダイヤルはキャンセルできません。

4 電話機からの設定操作一覧

設定は、電話機を発信状態にし、下表の「ダイヤル入力」に記載されている番号を、電話番号を押すように順にボタンを押して設定します。

設定が成功すると設定完了音がします。設定完了音がしている間は次の設定は行えませんので、次の設定は電話の発信音に変わってから行ってください。

これらの設定は、設定を入れるTELポートに接続した電話機から行ってください。

【共】は全ポート共通の設定

設定項目	ダイヤル入力	概要	頁
短縮/共通短縮ダイヤル登録	0*(短縮番号)(電話番号)# ★電話番号にはサブアドレスも登録可	短縮ダイヤル:各ポートごとに00~19 共通短縮ダイヤル:全TELポート共通20~59 【共】	40
発信制御	1*10[初期値] 1*11	発信許可 発信禁止	48
なりわけ	1*40[初期値] 1*41 1*42 1*43	使わない 疑似なりわけを使う INSなりわけを使う 両方を使う	74
ナンバー・ディスプレイ/ キャッチホン・ディスプレイ	1*50[初期値]	禁止	34
	1*51 1*52	ナンバー・ディスプレイのみ許可 ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ許可	35
	1*54	ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ許可	36
アナログ(PB方式)/ モデムダイヤルイン	1*580[初期値] 1*581	アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン禁止 アナログ(PB方式)/モデムダイヤルイン許可	37
通知する番号の桁数	1*590 1*591 1*592 1*593 1*594[初期値]	通知された番号の全て 下1桁 下2桁 下3桁 下4桁	37
メンテナンス用暗証番号	1*74(暗証番号) 1*74#[初期値]	暗証番号は4桁固定 暗証番号削除	【共】 82
オンネット識別音	1*920[初期値] 1*921	普通のベル 短いベル	【共】 74
フリー転送/着信転送	2*0[初期値] 2*1	転送解除 #20 全TELポート転送解除 転送セット #21 全TELポート転送セット	62
転送先登録	2*2(電話番号)#	転送先電話番号	63
転送同時呼出	2*#20[初期値] 2*#21	転送同時呼出しない 転送同時呼出する	64
転送アナウンス	2*6(パターン[初期値 1])	パターンは、1~4 1:転送アナウンスなし&転送元アナウンスなし 2:転送アナウンスあり&転送元アナウンスなし 3:転送アナウンスなし&転送元アナウンスあり 4:転送アナウンスあり&転送元アナウンスあり	65

設定項目	ダイヤル入力	概要	頁
フリー転送/着信転送			
セット用暗証番号	2 * #0 (暗証番号) 2 * #0# [初期値]	リモート用。暗証番号は4桁固定 セット用暗証番号削除	66
解除用暗証番号	2 * #1 (暗証番号) 2 * #1# [初期値]	リモート用。暗証番号は4桁固定 解除用暗証番号削除	66
着信制御	3 * 0 3 * 1 [初期値] 3 * 2	着信禁止 着信許可 割込着信許可 ★フッキング設定を有効にする必要 があります(9 * 21)	51 52
優先着信	3 * 3 (TELポート [初期値1])	TELポート番号は、0～2 0:優先着信なし	【共】 50
遅延呼出	3 * 4 (遅延回数 [初期値0])	遅延回数は、0～9	55
ナンバー	追加番号1 3 * 8 (追加番号1)# 3 * 8# [初期値]	追加番号1を登録 追加番号1を削除	【共】 56
	追加番号2 3 * * (追加番号2)# 3 * *# [初期値]	追加番号2を登録 追加番号2を削除	【共】 56
発信者番号通知	4 * 0 4 * 1 4 * 2 [初期値]	通知しない 通知する 契約による	46
通知電話番号	4 * 30 [初期値] 4 * 31 4 * 32 4 * 33	着信用番号 自己アドレス 追加番号1 追加番号2	47
ナンバー/ダイヤルイン	5 * * (追加番号)# 5 * (追加番号)# 5 * *# [初期値] 5 * #	設定追加番号のみ着信 設定追加番号+契約者回線番号に着信 契約者回線番号のみ着信 電話番号による着信区別を行わない	56
サブアドレス	6 * * (サブアドレス番号)# 6 * (サブアドレス番号)# 6 * *# 6 * # [初期値]	設定サブアドレスのみ着信 設定サブアドレス+サブアドレスなし着信 サブアドレスなしのみ着信 サブアドレス識別しない	58
機器種別	発信/着信 7 * 1 [初期値] 7 * 2 7 * 3	機器種別「任意」 機器種別「電話」 機器種別「FAX」	80
	着信 7 * 00 [初期値] 7 * 01	着信時、機器種別をチェックしない 着信時、機器種別をチェックする	81
ダイヤル完了タイマー	8 * (完了秒 [初期値4])	完了秒は0～9 ★0は15秒	33
フッキング	9 * 20 [初期値] 9 * 21 9 * 22	無効 有効 通信中発信用フッキングのみ禁止	76
フッキング有効時間	9 * 23 (0～9 [初期値1])	0:約0.03秒 5:約0.5秒 1:約0.1秒 6:約0.6秒 2:約0.2秒 7:約0.7秒 3:約0.3秒 8:約0.8秒 4:約0.4秒 9:約0.9秒	77

設定項目	ダイヤル入力	概要	頁	
フッキング				
オンフック認識時間	9*24(0~9[初期値3])	0:約0.2秒 1:約0.3秒 2:約0.4秒 3:約0.5秒 4:約0.6秒	5:約0.7秒 6:約0.8秒 7:約0.9秒 8:約1秒 9:約2秒	77
フッキング完了時間	9*25(0~9[初期値3])	0:約3.5秒 1:約1秒 2:約2秒 3:約3秒 4:約4秒	5:約5秒 6:約6秒 7:約7秒 8:約8秒 9:約9秒	77
音量				
受話音量	9*50(レベル[初期値2])	レベル0~4(0:最小 4:最大)	39	
送話音量	9*51(レベル[初期値2])	レベル0~4(0:最小 4:最大)	39	
呼出音周波数	9*60[初期値] 9*61 9*62 9*63	約16.7ヘルツ 約20.0ヘルツ 約25.0ヘルツ 約33.3ヘルツ	79	
ダイヤル方式	9*70[初期値] 9*71	PB(プッシュホン) DP(ダイヤルパルス)	32	
自己アドレス	9*80(電話番号)#	電話番号を登録	【共】 31	
フッキング代用	9**0[初期値] 9**1	フッキング代用禁止 フッキング代用許可	78	
切断信号(CPC)	#0*0*00 #0*0*01[初期値]	切断信号を出さない 切断信号を出す	80	

5 主な仕様

項目		サービス内容		
ISDN 回線	適用回線	INSネット64		
	インターフェース構造	2B+D(基本インターフェース) ピンポン方式 P-MP		
	インターフェース形態 及びレイヤ1起動種別	P-MP常時		
	回線接続コネクタ	6pinモジュラージャック(RJ-11)		
	利用通信サービス	Bチャンネル回線交換(伝送速度: 64Kbps×2ch)		
データ ポート	インターフェース	ITU-T勧告 V.24/V.28準拠(D-Sub9pinコネクタ) USB		
	回 線 交 換	同期方式	非同期/同期PPP変換(MP [BOD/BACP])、PIAFS	
		通信速度(Kbps)	同期(PPP)	64/128(MPIによる64+64)
			同期(PIAFS)	32
		端末速度(Kbps)	9.6/19.2(38.4/57.6/115.2/230.4) ()内は、規格外	
	非同期/同期変換時データ	PPPフォーマット		
接続手順	ATコマンド			
TEL ポート	インターフェース	6pinモジュラージャック(RJ-11)×2、		
	基 本 機 能	発信ダイヤル	PB(ブッシュホン)、DP(ダイヤルパルス 10P/20P)	
		設定方式	接続電話機、接続パソコン	
		供給電圧その他	約48V(無負荷時) 極性反転機能付き	
サポート機能	フレックスホン ^{※1} 、i-ナンバー/ダイヤルイン、サブアドレス、通信中着信通知、発信者番号通知、ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ電話機対応、INSなりわけ ^{※2} 、機器種別設定、ステミュラス手順(INSボイスワープ/INSナンバーリクエスト)、OPC信号制御			
独自機能	疑似フレックスホン(三者通話のミキシングモード以外全て)、優先着信、遅延呼出、内線通話、内線転送、ダイヤルイン識別着信(グローバルセレクト)、各種着信選択、疑似なりわけ、発信禁止設定			
その他	待機モード	待ち受け時間	約4.5時間(単3アルカリ乾電池)/約3.0時間(ニカド電池)	
		連続通話時間	約3.5時間(単3アルカリ乾電池)/約2.5時間(ニカド電池) (TEL1のみ使用)	
		使用電源	専用ニカド電池(別売)、単3アルカリ乾電池×6	
	装備	ファームアップデート機能、状態表示LED×7、ファンクションキー、折り返し試験機能付きDSU内蔵、U点ノーマル/リバース切替、縦横置き対応		
	使用電源	AC100V±10% (50/60Hz)		
	消費電力	約7W		
	外形寸法	約0.3kg(ACアダプタ含まず)		
	使用環境	温度0~40℃ 湿度20~80%(ただし結露なきこと)		
	オプション	スタンドアダプタ ALEX-TD/SA2000、専用バッテリーボックス、専用ニカド電池、壁掛けアダプタ ALEX-TD/WA3000		

※1 フレックスホンとは、キャッチホン・通信中転送・三者通話・着信転送の4つのサービスの総称です。

※2 INSなりわけは、識別リング機能のみ対応です。

株式会社アレクソン

お問い合わせ先

サポートセンター

03-5645-8571

050-5531-9911

受付時間：月曜～金曜 9:20-12:00・13:00-17:00

(祝祭日、年末年始、弊社休日を除く)

<http://www.alexon.co.jp/>



本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写するとは、堅くお断りします。
本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

TIM2060H